第２編　上野Ⅱ遺跡

第１章　既往の調査

これまで上野Ⅱ遺跡では、昭和 62 年に長野原町教育委員会によって詳細分布調査が行われたのみで、本調査は今回が最初の発掘調査事例である。その後、今回の横壁土地改良事業に伴い試掘調査が行われた。その結果、焼土を伴う住居跡や陥し穴、鉄鏃など平安時代の遺物が出土し、本調査が行われることとなった。

第２章　調査の経過

上野Ⅱ遺跡の発掘調査は、平成 30 年７月 11 日から同年 12 月 28 日まで実施した。調査区外に排土置場を確保できないため調査区を南部、中部、北部に三分割した。また調査区内を駐車場や上野Ⅰ遺跡への進入路として使用していたため、さらに細分して調査を実施した（第 74 図）。

７月 11 日、北部（北端）の表土掘削を開始する。７月 26 日、中部（南）の表土掘削を開始する。

８月 21 日、北部の遺構掘削を開始する。８月 28 日、SB01 の掘削を開始する。

９月３日、北部の空中写真撮影を実施する。９月５日、中部の遺構掘削を開始する。９月 14 日、南部（南）の表土掘削を開始する。９月 26 日、中部（南）の空中写真撮影を実施する。駐車場を移転する。９月 27 日、南部の遺構掘削を開始する。

10 月２日、進入路の付け替えを行う。10 月 12 日、SI01 の掘削を開始する。10 月 17 日、北部（道下）・中部（小屋前）の空中写真撮影を実施する。10 月 19 日、南部 (北端) の空中写真撮影を実施する。

11 月７日、南部（北西）の空中写真撮影を実施する。11 月 13 日、埋没谷１面の空中写真撮影を実施する。11 月 17 日、現地説明会を行う。11 月 27 日、SI02・SN02 のテフラサンプルを採取する。

12 月６日、南部の空中写真撮影を実施する。12 月 13 日、埋没谷２面の空中写真撮影を実施する。12 月 18 日、中部（北端）の空中写真撮影を実施する。12 月 21 日、埋没谷３面の空中写真撮影を実施する。12 月 26 日、中部の空中写真撮影を実施する。12 月 28 日、遺構掘削が完了し、上野Ⅱ遺跡の調査が終了した。

第３章　基本層序

今回の発掘調査の基本土層はＡ地点（南部東壁）・Ｂ地点（北部西壁）の２か所で確認した。基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ$_1$層　黒　褐　色　土：表土である。粘性は弱く、しまりはやや弱い。砂礫（φ 0.1 ～ 1.0㎝）を微量含む。

第Ⅰ$_2$層　黒　褐　色　土：表土である。粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（φ 0.1 ～ 0.5㎝）を微量含む。埋没谷上のＡ地点でのみ確認された。

第Ⅱ層　黒　褐　色　土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（φ 0.1 ～ 1.0㎝）を微量含む。

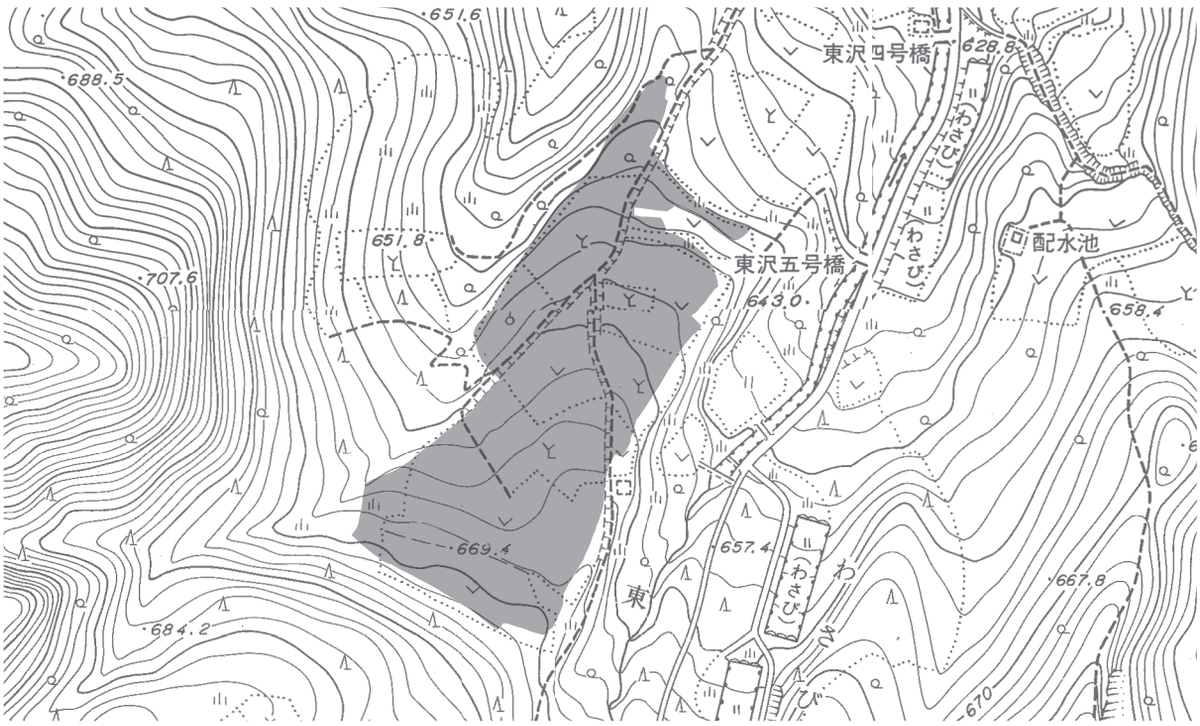
第Ⅲ層　暗　褐　色　土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（φ 0.1 ～ 1.5㎝）を微量含む。

第Ⅳ層　黒　褐　色　土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（φ 0.1 ～ 0.5㎝）を微量含む。

第Ⅴ層　黒　褐　色　土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（φ 0.1 ～ 1.0㎝）・As-Kk（φ 0.1 ～ 3.5㎝）を微量含む。試掘 47 ～ 55 号トレンチの８層に相当する。

第Ⅵ$_1$層　暗　褐　色　土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。ローム粒（φ 0.1 ～ 0.4㎝）・YPk（φ 0.1 ～ 1.5㎝）を微量含む。試掘 47 ～ 55 号トレンチの 11 層を細分したものである。

第Ⅵ$_2$層　暗　褐　色　土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（φ 0.1 ～ 1.5㎝）を微量含む。試掘 47 ～ 55 号トレンチの 11 層を細分したものである。



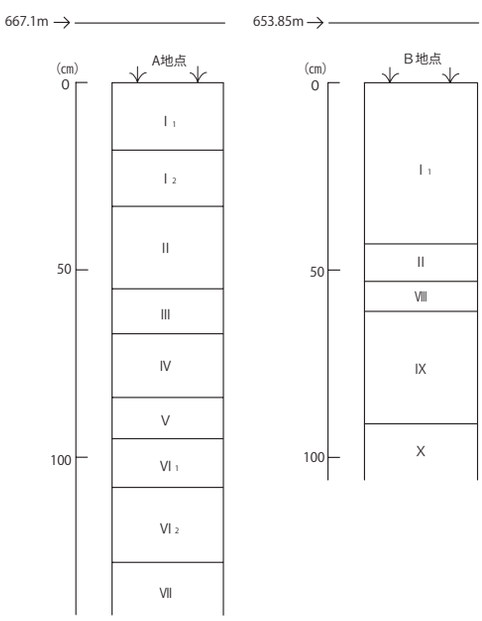
第70図　調査区位置図（1/2,500）

第Ⅶ層　黒　褐　色　土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（φ 0.1 ～ 0.5㎝）を微量含む。

第Ⅷ層　黒　褐　色　土：粘性・しまりともに弱い。YPk（φ 0.1 ～ 0.4㎝）を微量含む。

第Ⅸ層　にぶい黄褐色土：粘性・しまりともに弱い。ロームブロック（φ 0.5 ～ 5.0㎝）を含み、YPk（φ 0.1 ～ 0.4㎝）を微量含む。試掘 47 ～ 55 号トレンチの 12 層に相当する。

第Ⅹ層　黄　褐　色　土：ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。

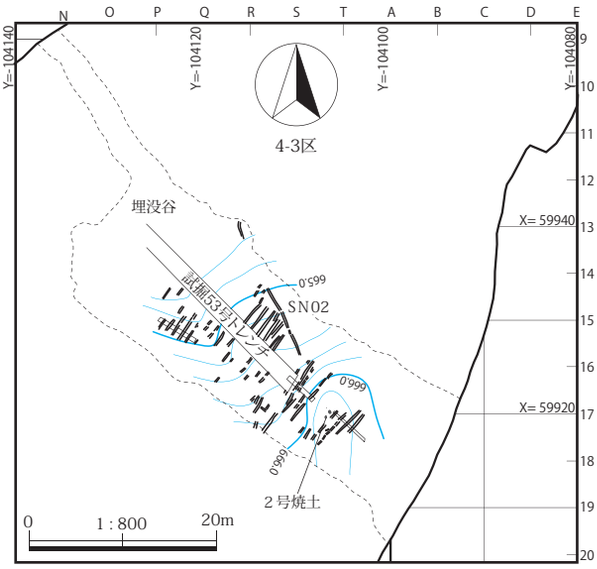


第71図　基本土層柱状図（1/20）

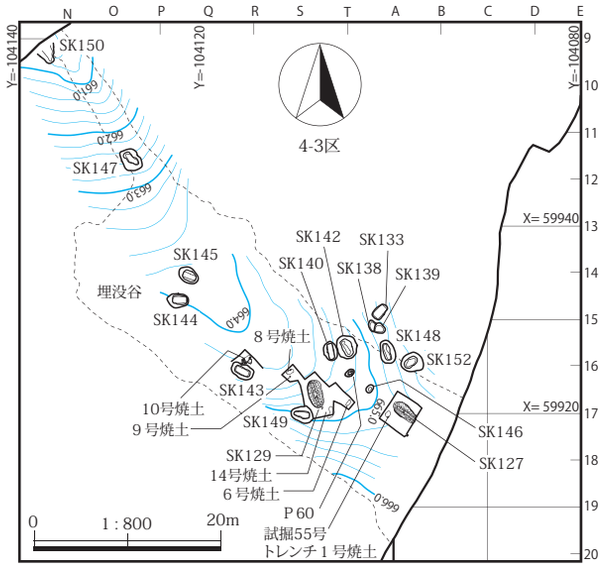
第４章　検出された遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

本遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字上野に所在する縄文時代中期の集落跡、平安時代の集落跡を主体とする複合遺跡である。吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面の南方の、丸岩山の北西面の山脚地帯に位置する。吾妻川支流の東沢の中流の左岸に位置する尾根



第72図　調査区全体図１面目（1/800）



第73図　調査区全体図３面目（1/800）

上に立地する。尾根の西側を東沢の支流であるかばら沢が流れている。遺跡のある尾根は、丸岩から北東に向かって伸びており、丸岩山の山脚のうち比較的幅広い。この尾根上には、南北の上下二段に分かれる緩斜面があり、本遺跡は北側下段の緩斜面に立地する。後背緩斜面には上野Ⅰ遺跡がある。南から北へ向かって下る傾斜地で、標高は 648.4 m～ 672.0 mである。現況は畑地である。

今回の発掘調査は上野Ⅱ遺跡の第１次調査にあたる。遺跡の南端部に一段高い、東西に長い台地があり、台地上の中央から西寄りが幅約 20 mの平坦面となっている。台地の目の前の東半分に約 30 m四方の方形平坦面が広がる。この方形平坦面の南半部には埋没谷が南東から北西に向かって幅約 10 ～ 15 mで帯状に存在し、埋没谷上は帯状に窪地となっている。方形平坦面から北東方向に緩斜面が舌状に広がる。緩斜面の西側は、さらに低くなっており、同じく緩斜面が帯状に北東方向に伸びている。舌状緩斜面と帯状緩斜面の境界には埋没谷が北西方向に伸びており、その北部は現在も埋没しきっておらず、道および排水路として機能している。

今回の発掘調査で確認された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡２軒、土坑７基、埋甕１基、遺物集中２ヵ所、弥生時代の土坑１基、平安時代の竪穴住居跡４軒、掘立柱建物跡１棟、カマド屋１軒、陥し穴 88 基、土坑６基、畑２面、焼土遺構４基、ピット 37 基、中世の陥し穴９基、焼土遺構６基、時期不明の竪穴状遺構２基（建て替え１基を含む）、土坑 46 基、石囲遺構１基、溝 23 条、畑１面、ピット 20 基である。SK44・45・55・66・72、P40・57・58、１号・４号・５号・６号焼土は、当初遺構として調査を行なったが、後に遺構ではないと判断したため欠番とした。出土遺物の種類は、縄文土器、弥生土器、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、石器などで、その数量はテンバコで６箱分であった。

第２節　縄文時代の遺構と遺物

（１）　竪穴住居跡

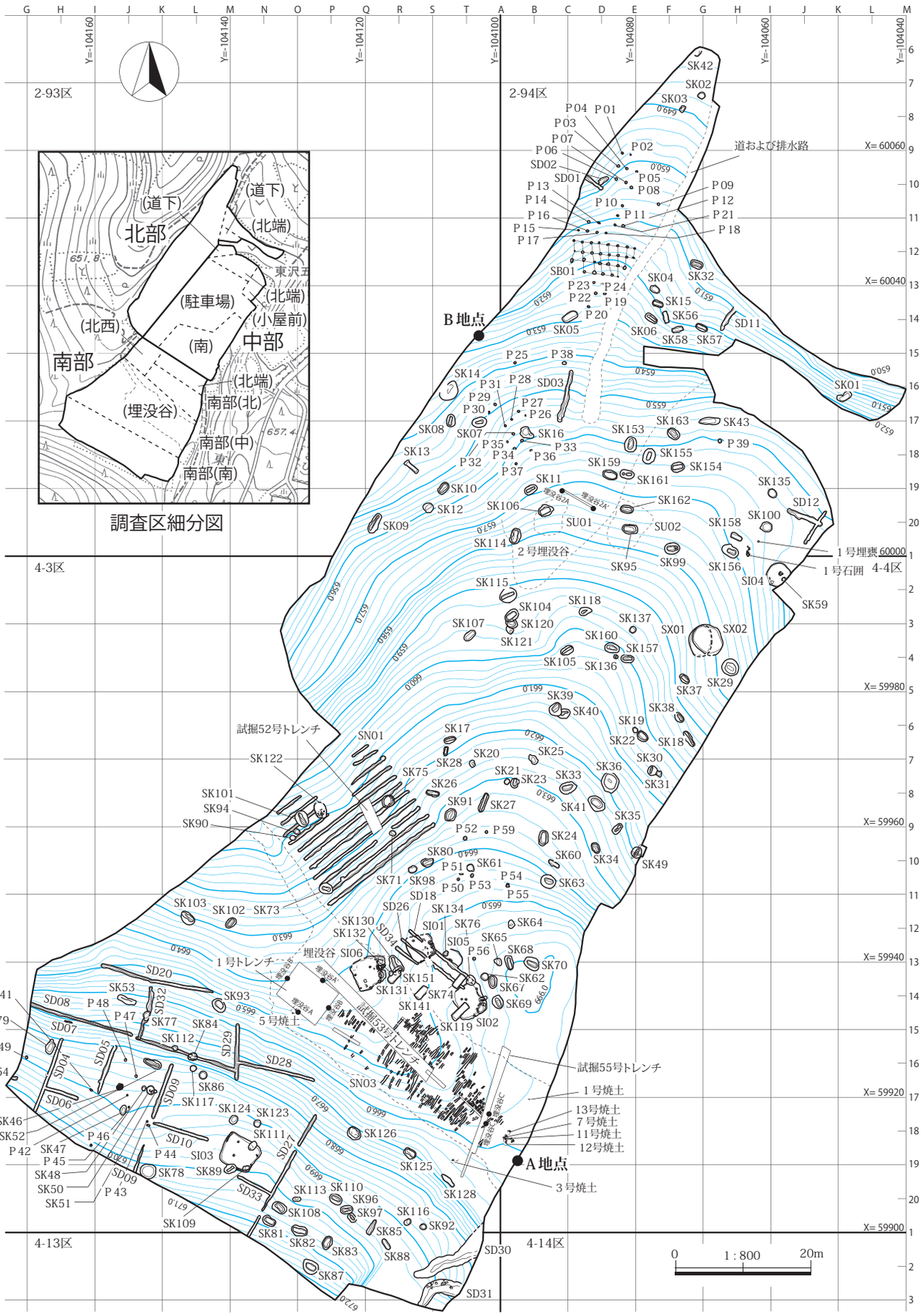
SI04（第 75 ～ 77 図／第 14・22・24 表／ＰＬ９・10・18）

位置　４－４区／Ｉ－１　**重複関係**　SK59 と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態　南東側は調査区外であるが概ね良好である。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　残存部は円形を呈する。規模は主軸 3.53 m、副軸３m以上、深さ 13㎝、床面積 8.07㎡。　**主軸方位**　Ｎ－ 35 °－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は北壁 7㎝、南壁 12㎝、西壁 13㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。南西側で敷石が確認された。　**柱穴**　Ｐ１・Ｐ２の２基が掘り方で確認さ

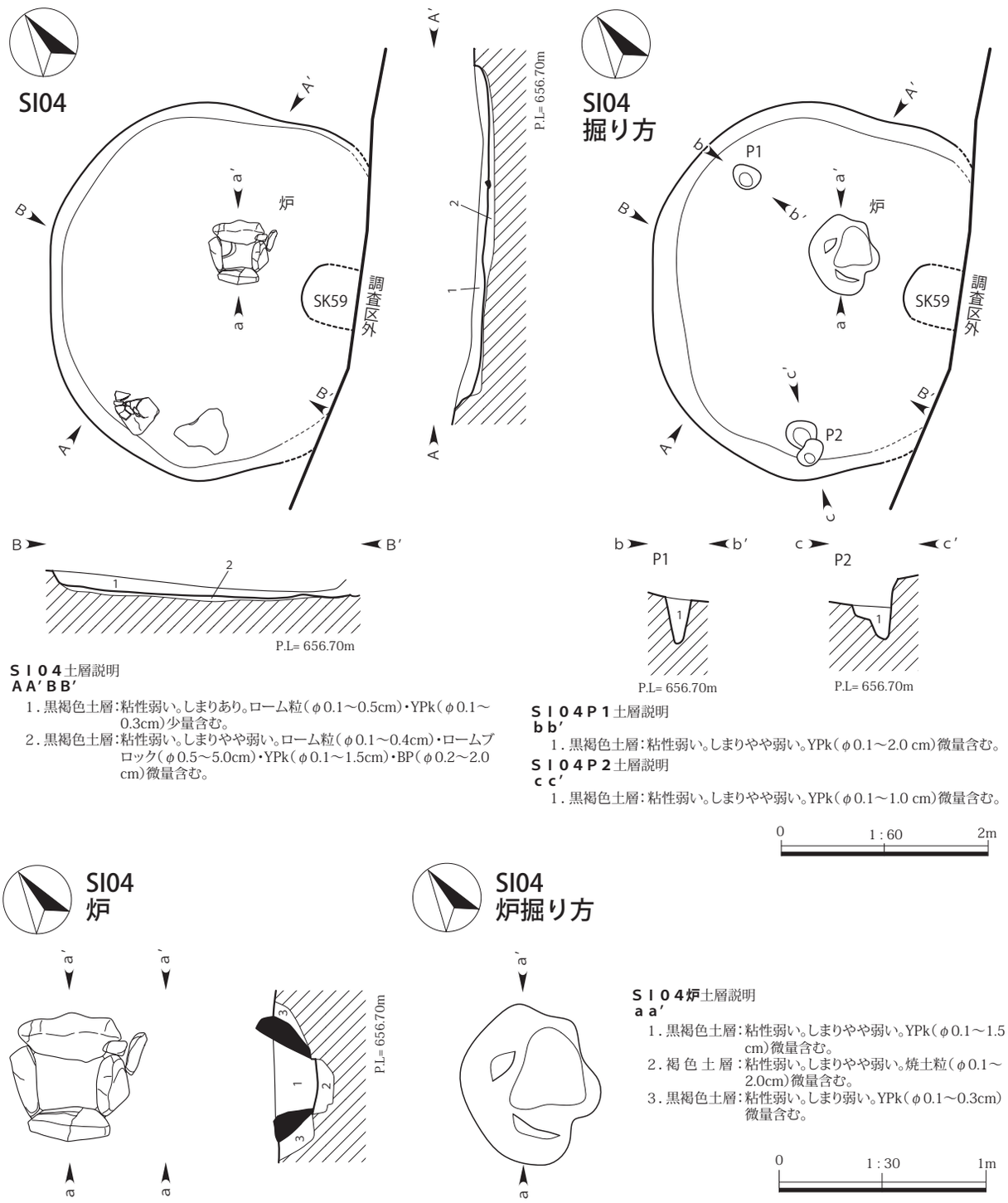
第 14 表　SI04 ピット計測表

	P1	P2
長軸長（㎝）	26	28
短軸長（㎝）	23	18
深　さ（㎝）	42	30



第74図　調査区全体図２面目(1/800)

れた。いずれも平面形は楕円形で規模は小さい。それぞれの規模は第 14 表に記した。　**炉**　住居の中央からやや北東寄りに位置する。平面形は方形で、規模は長軸 62㎝、短軸 55㎝、深さ 28㎝。床面を不整形に掘り込み、４枚の扁平な板石を用いている。南側が開く構成をしていたと見られる。　**その他の施設**　柄に当たる掘り込みや敷石は見られなかった。　**遺物出土状況**　縄文土器片が７点、土師器片７点、石鏃・磨石などの石製品 11 点、須恵器片が１点、黒曜石のチップが５点出土した。　**遺物**　加曽利ＥⅢ式と考えられる縄文土器３点、黒曜石の石鏃１点を図示した。　**備考**　本遺構は小型の竪穴住居跡である。敷石住居としては柄を持たない初期段階の住居と考えられる。帰属時期は、出土遺物から縄文時代中期後半（加曽利Ｅ式期）と考えられる。



ＳＩ０４土層説明
ＡＡ′ＢＢ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～5.0cm）・YPk（φ0.1～1.5cm）・BP（φ0.2～2.0cm）微量含む。

ＳＩ０４Ｐ１土層説明
ｂｂ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～2.0 cm）微量含む。

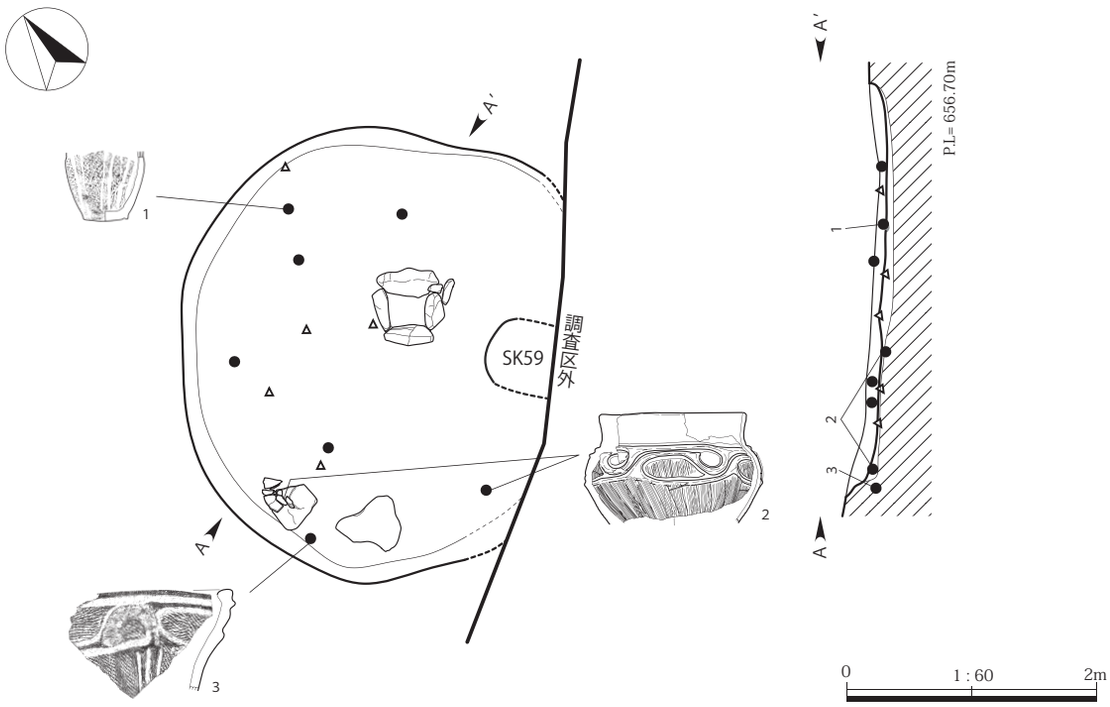
ＳＩ０４Ｐ２土層説明
ｃｃ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0 cm）微量含む。

0　1：60　2m

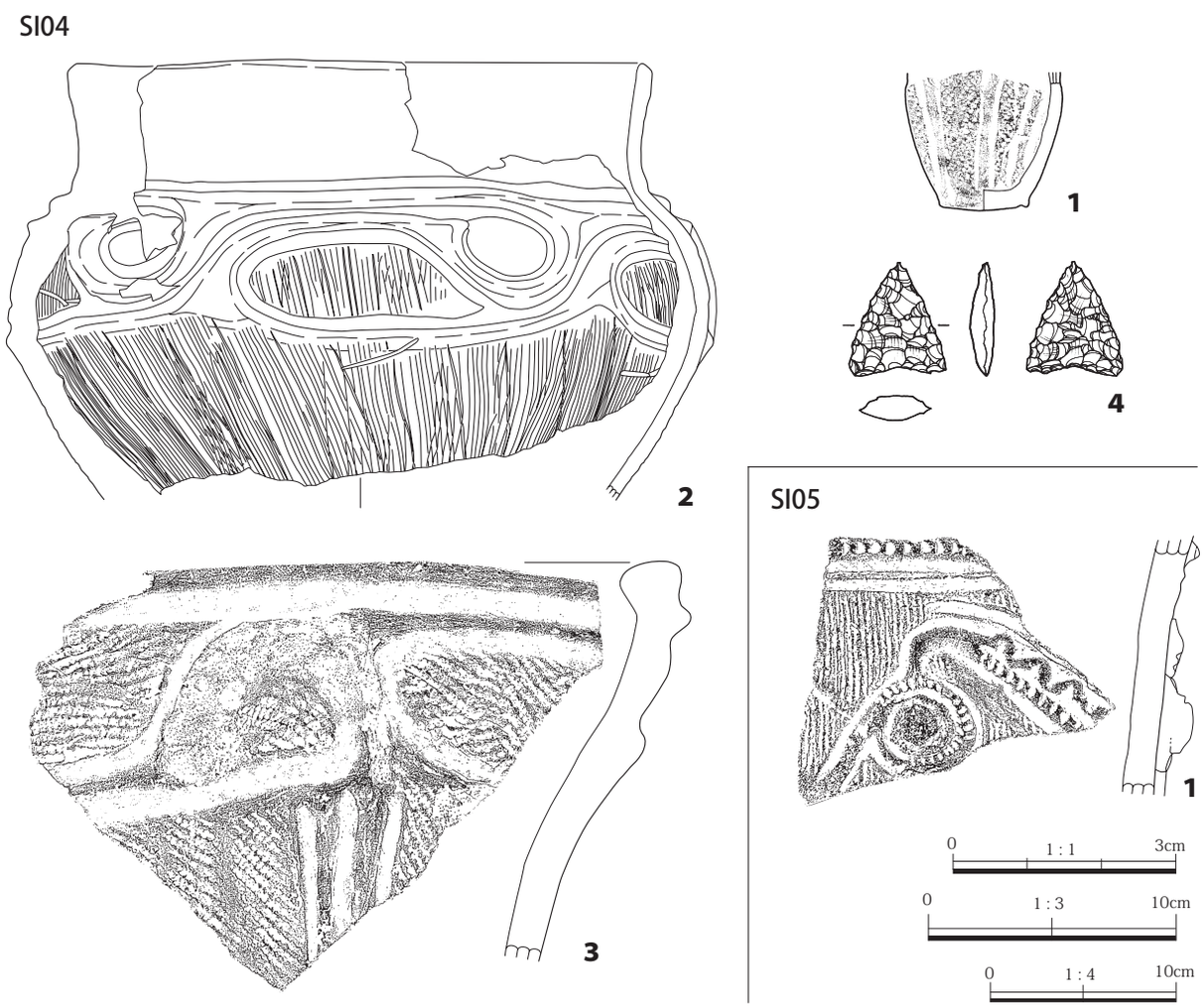
ＳＩ０４炉土層説明
ａａ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.5cm）微量含む。
2．褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。焼土粒（φ0.1～2.0cm）微量含む。
3．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。

0　1：30　1m

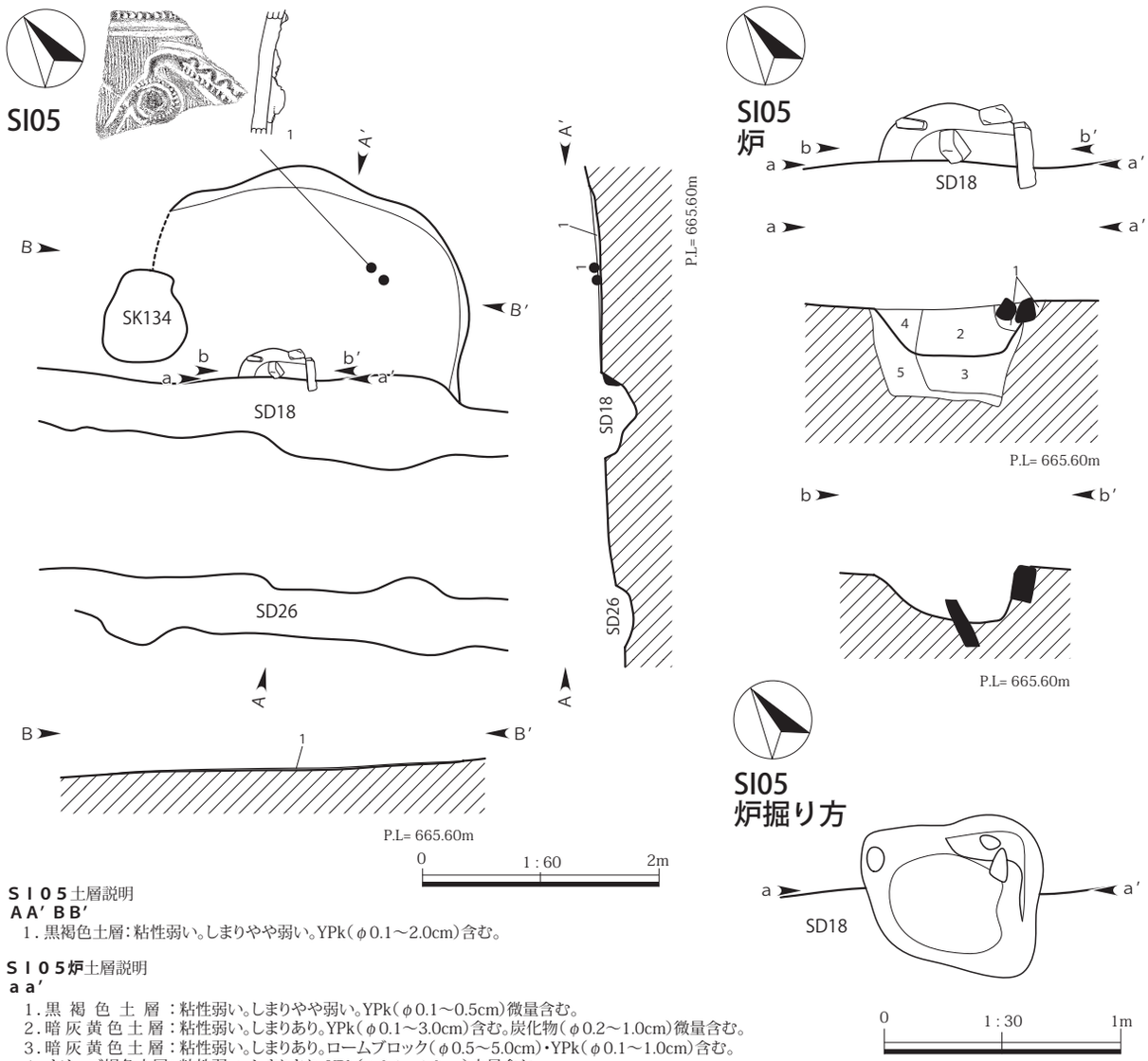
第75図　SI04・掘り方実測図（1/60）・炉・炉掘り方実測図（1/30）



第76図　SI04遺物出土状況図（1/60）



第77図　SI04・05出土遺物実測図（1/1・1/3・1/4）



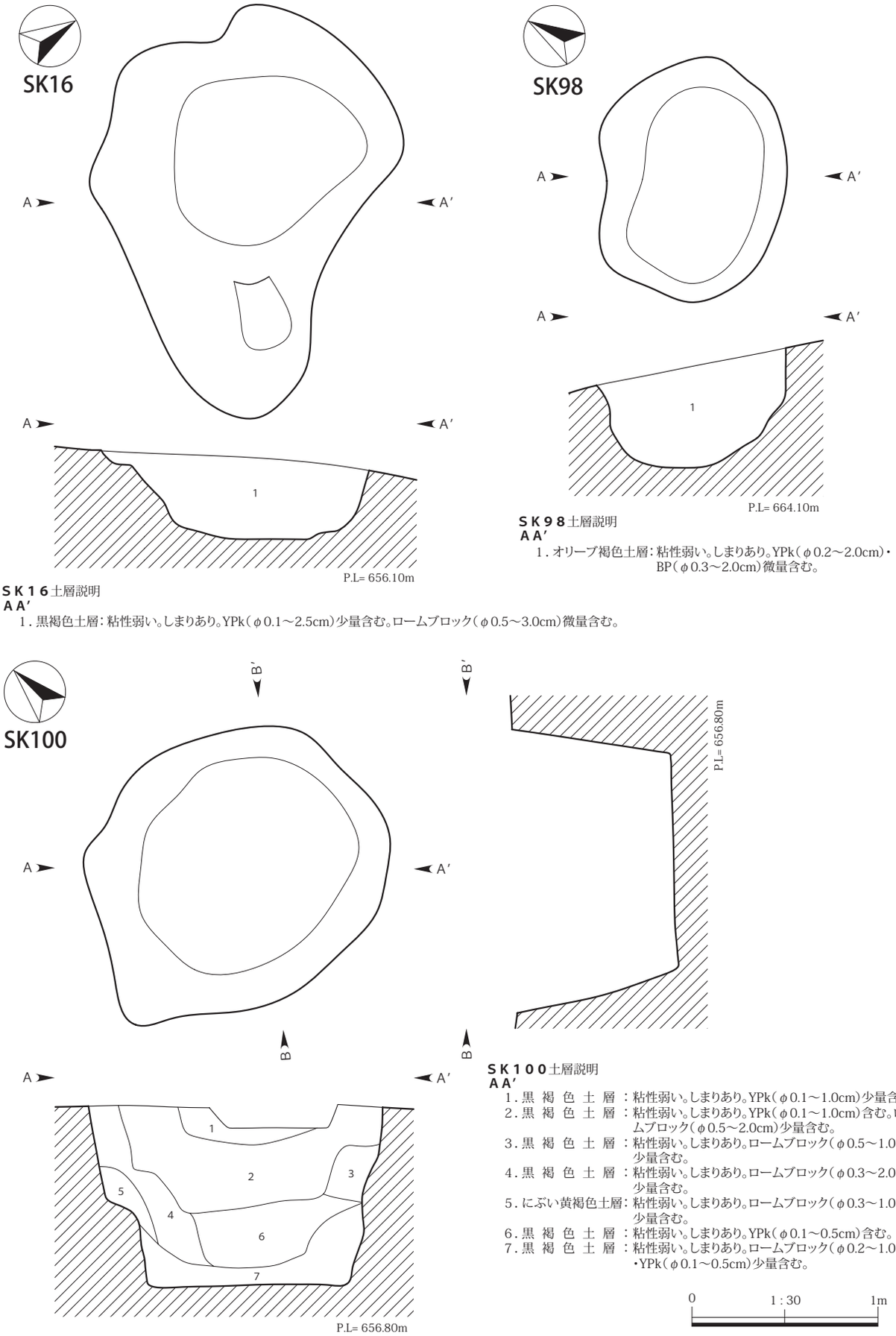
ＳＩ０５土層説明
ＡＡ′ ＢＢ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～2.0cm）含む。

ＳＩ０５炉土層説明
ａａ′
1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2．暗 灰 黄 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～3.0cm）含む。炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。
3．暗 灰 黄 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）含む。
4．オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
5．オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.4cm）含む。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む。

第78図　SI05実測図（1/60）・炉・炉掘り方実測図（1/30）

SI05（第 77・78 図／第 22・24 表／ＰＬ 10・18）

位置　４－３区Ｓ－12　**重複関係**　SD18 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　上部のほとんどが削平されており、西・南側は現存しない。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸 1.78 m以上、副軸 2.65 m以上、深さ 4㎝、床面積 3.68㎡。　**主軸方位**　Ｎ－45°－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は北壁 4㎝、東壁 2㎝。上部が削平されているため、壁の立ち上がりはほとんど残っていなかった。壁溝は確認されなかった。　**床面**　直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**炉**　住居跡のほぼ中央に位置する。平面形は方形で、規模は長軸 64㎝、短軸 24㎝以上、深さ 20㎝。SD18 によって一部壊されている。炉内に明確な火床面は見られなかった。板状石は東・北側にのみ残っており、炉内に板状石が落ち込んでいる。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　中央やや南寄りの位置で縄文土器片２点が出土した。　**遺物**　出土遺物のうち、勝坂Ⅲ式と考えられる縄文土器片１点を図示した。　**備考**　本遺構は小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（勝坂式期）と考えられる。



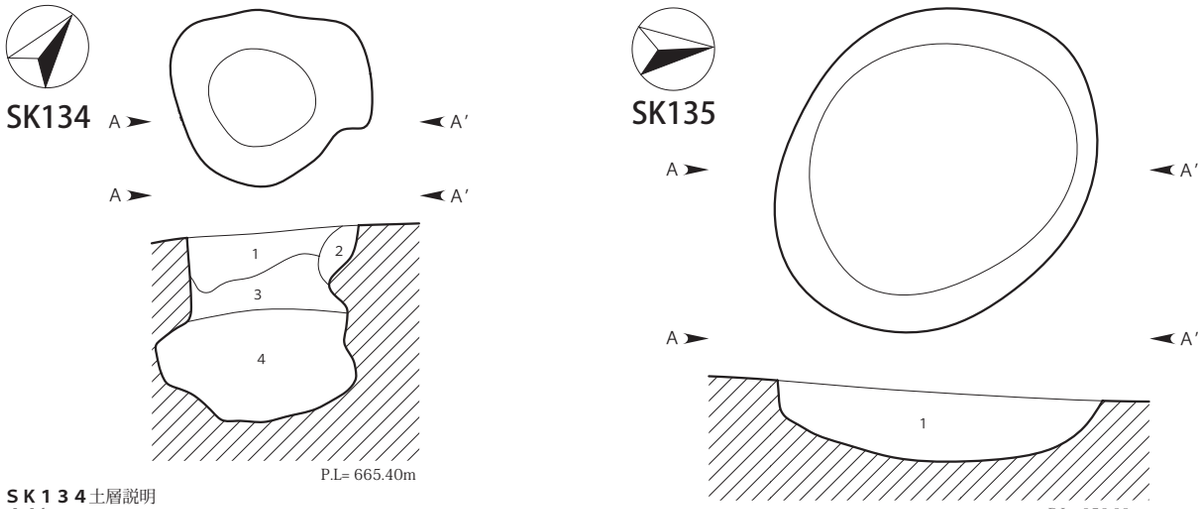
ＳＫ１６土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～2.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）微量含む。

ＳＫ９８土層説明
ＡＡ′
1．オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～2.0cm）・BP（φ0.3～2.0cm）微量含む。

ＳＫ１００土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
2．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）含む。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む。
3．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）少量含む。
4．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.3～2.0cm）少量含む。
5．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.3～1.0cm）少量含む。
6．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。
7．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.2～1.0cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む。

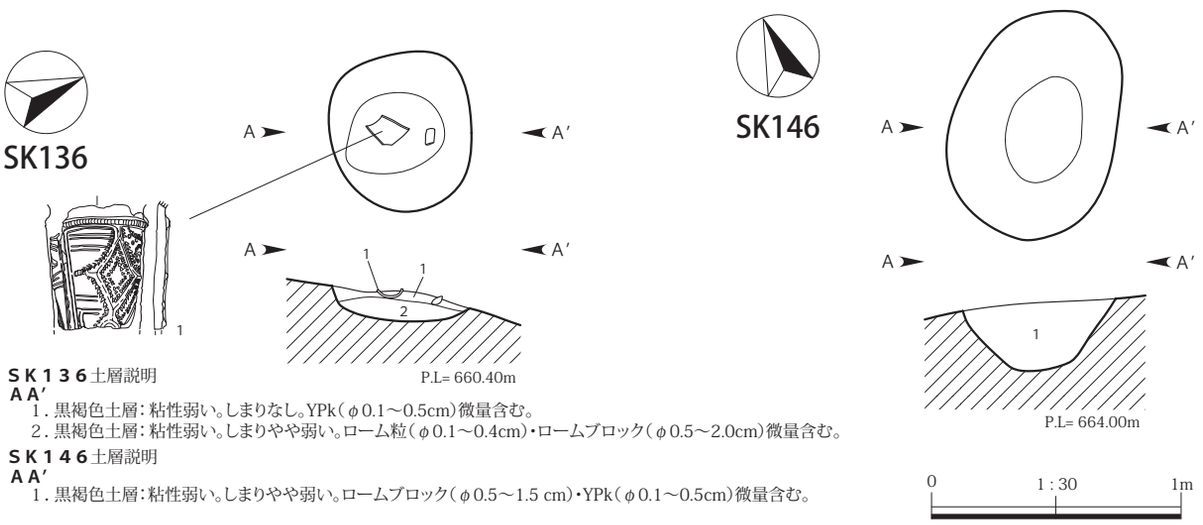
0　1：30　1m

第79図　SK16・98・100実測図（1/30）



ＳＫ１３４土層説明
ＡＡ′
1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～2.0cm）少量含む。BP（φ0.2～3.0cm）微量含む。
2．黄 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～6.0cm）含む。YPk（φ0.1～1.0cm）・炭化物（φ0.2～0.5cm）微量含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～2.5cm）少量含む。BP（φ0.2～1.0cm）微量含む。
4．暗 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.5cm）少量含む。

ＳＫ１３５土層説明
ＡＡ′
1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～3.5 cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～1.0cm）・BP（φ0.2～1.5cm）微量含む。



ＳＫ１３６土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりなし。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～2.0cm）微量含む。

ＳＫ１４６土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～1.5 cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

第80図　SK134～136・146実測図（1/30）

（2）土坑

SK16（第 79 図）

位置　２－94区Ａ－17　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　不整楕円形を呈する。規模は長軸 168㎝、短軸 140㎝、深さ 43㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 11°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。南東壁が広がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片 11 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。

SK98（第 79 図）

位置　４－３区Ｒ－ 10　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　オリーブ褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 132㎝、短軸 106㎝、深さ 54㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 66°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　中央に向かって緩やかに傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　縄文土器は出土していないが、SI04・05 など縄文時代の遺構の覆土と類似する覆土で埋没しているため、縄文時代と判断した。

SK100（第79図／ＰＬ10）

位置　２－94区Ｈ－20　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸180㎝、短軸144㎝、深さ97㎝。　**主軸方位**　Ｎ－73°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　縄文土器は出土していないが、SI04・05など縄文時代の遺構の覆土と類似する覆土で埋没しているため、縄文時代と判断した。

SK134（第80図／ＰＬ11）

位置　４－３区Ｓ－12　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸78㎝、短軸71㎝、深さ73㎝。　**主軸方位**　Ｎ－30°－Ｅ　**壁面**　袋状に中位が狭まる。　**底面**　中央に向かって傾斜する。　**遺物**　縄文土器片が３点出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。

SK135（第80図／ＰＬ11）

位置　２－94区Ｉ－19　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸142㎝、短軸110㎝、深さ27㎝。　**主軸方位**　Ｎ－40°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　中央に向かって緩やかに傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　縄文土器は出土していないが、SI04・05など縄文時代の遺構の覆土と類似する覆土で埋没しているため、縄文時代と判断した。

SK136（第80・81図／第24表／ＰＬ11・18）

位置　４－４区Ｄ－４　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。長軸60㎝、短軸58㎝、深さ12㎝。　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｗ　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　中期（勝坂式）と考えられる縄文土器が、覆土上部で横置状態で出土した。大小の破片25点のうち、状態の良い１点を図示した。　**備考**　出土遺物から、縄文時代中期に帰属すると考えられる。

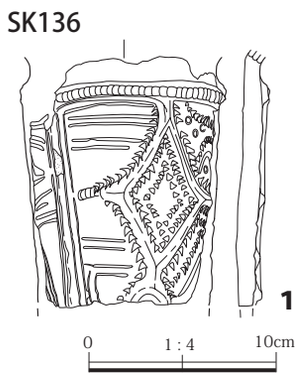
SK146（第80図）

位置　４－３区Ｔ－16　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸94㎝、短軸70㎝、深さ27㎝。　**主軸方位**　Ｎ－24°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片２点が出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。

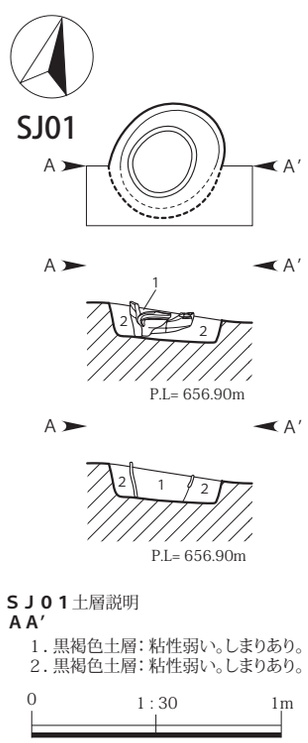
（３）埋甕

１号埋甕（SJ01）（第82・83図／第24表／ＰＬ11・18）

位置　２－94区Ｈ－20　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。長軸推定49㎝、短軸推定45㎝、深さ14㎝。　**主軸方位**　Ｎ－35°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器１点が正置状態で出土し、図示した。　**備考**　出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。



第81図　縄文時代土坑出土遺物実測図（1/4）



第82図　SJ01実測図（1/30）

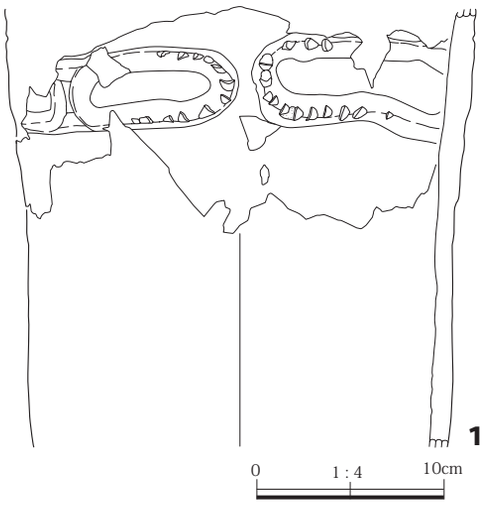
（4）遺物集中

西側を１号遺物集中、東側を２号遺物集中とした。

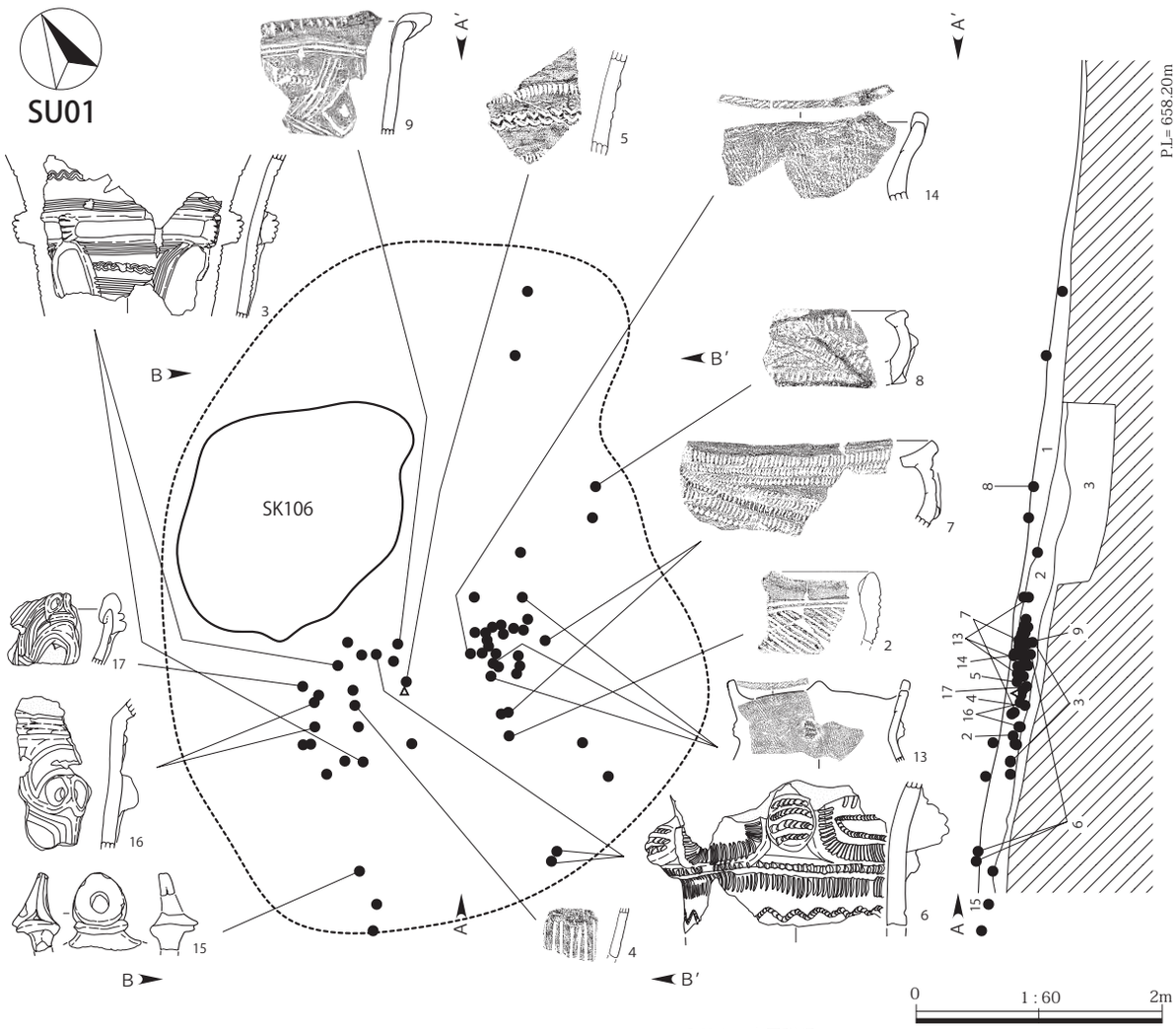
１号遺物集中（SU01）

（第 84・85 図／第 24 表／ＰＬ 11・18・19）

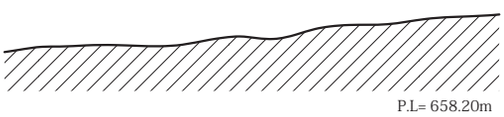
位置　２－94 区Ａ・Ｂ－19・20　**重複関係**　SK106 と重複し、本遺構の方が古い。　**規模**　幅 3.2 m、長さ 5.6 mの範囲である。　**遺物出土状況**　縄文土器 158 点、土師器片 13 点、土師質土器の杯１点、須恵器片４点、陶磁器片３点、剥片３点が出土した。中でも状態の良い縄文土器の深鉢 17 点を図示した。　**備考**　確認面での遺物出土範囲を住居範囲と仮定し、土層確認用の十字ベルトを設定して掘り下げたが、遺物の出土レベルは緩斜面の傾斜角に平行しており、確認面から数㎝程度で遺物が出土しなくなった。また人為的な掘り込み・水平な床面・



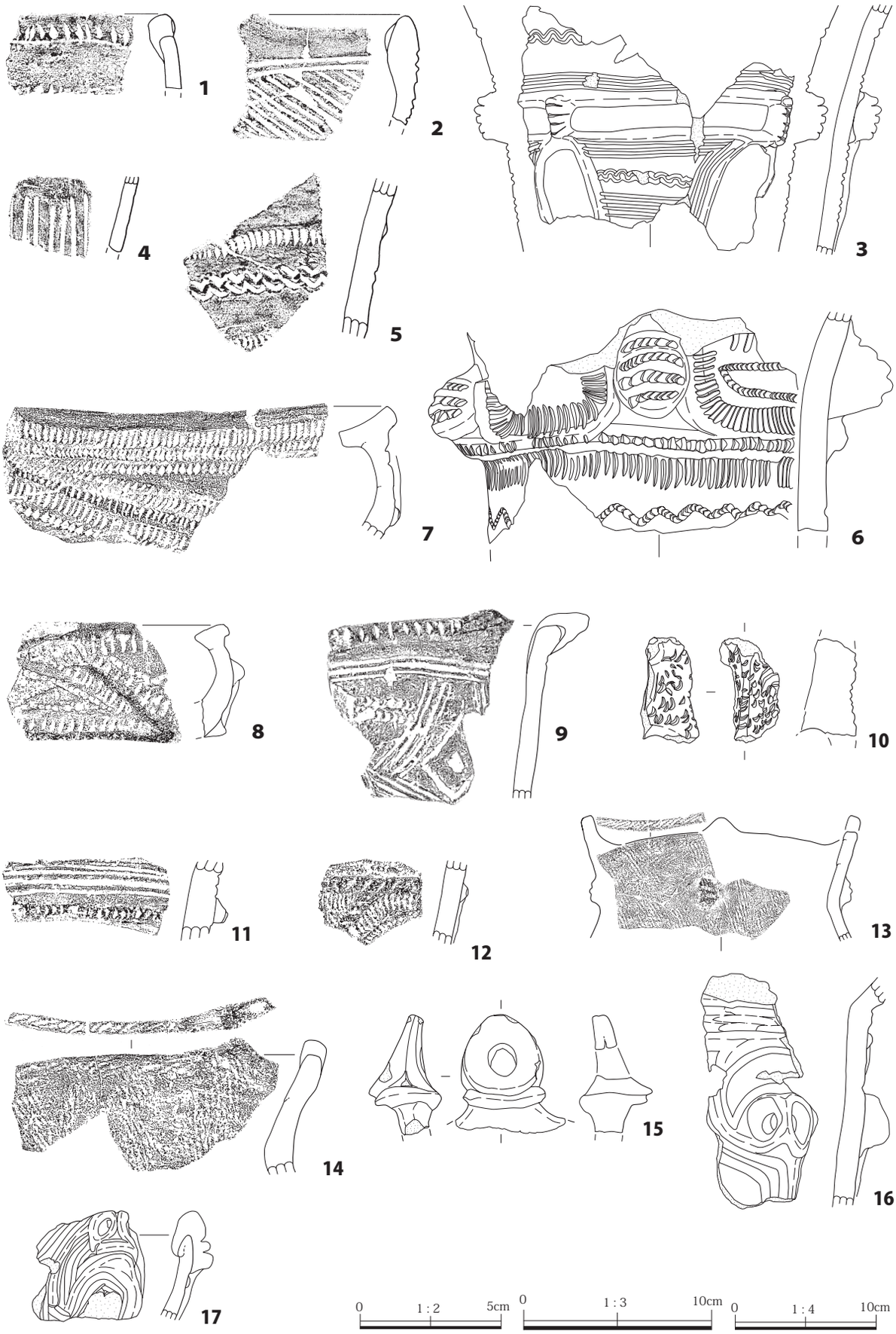
第83図　SJ01出土遺物実測図（1/4）



ＳＵ０１土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。
2．灰黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
3．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～1.0cm）含む。



第84図　SU01実測図（1/60）

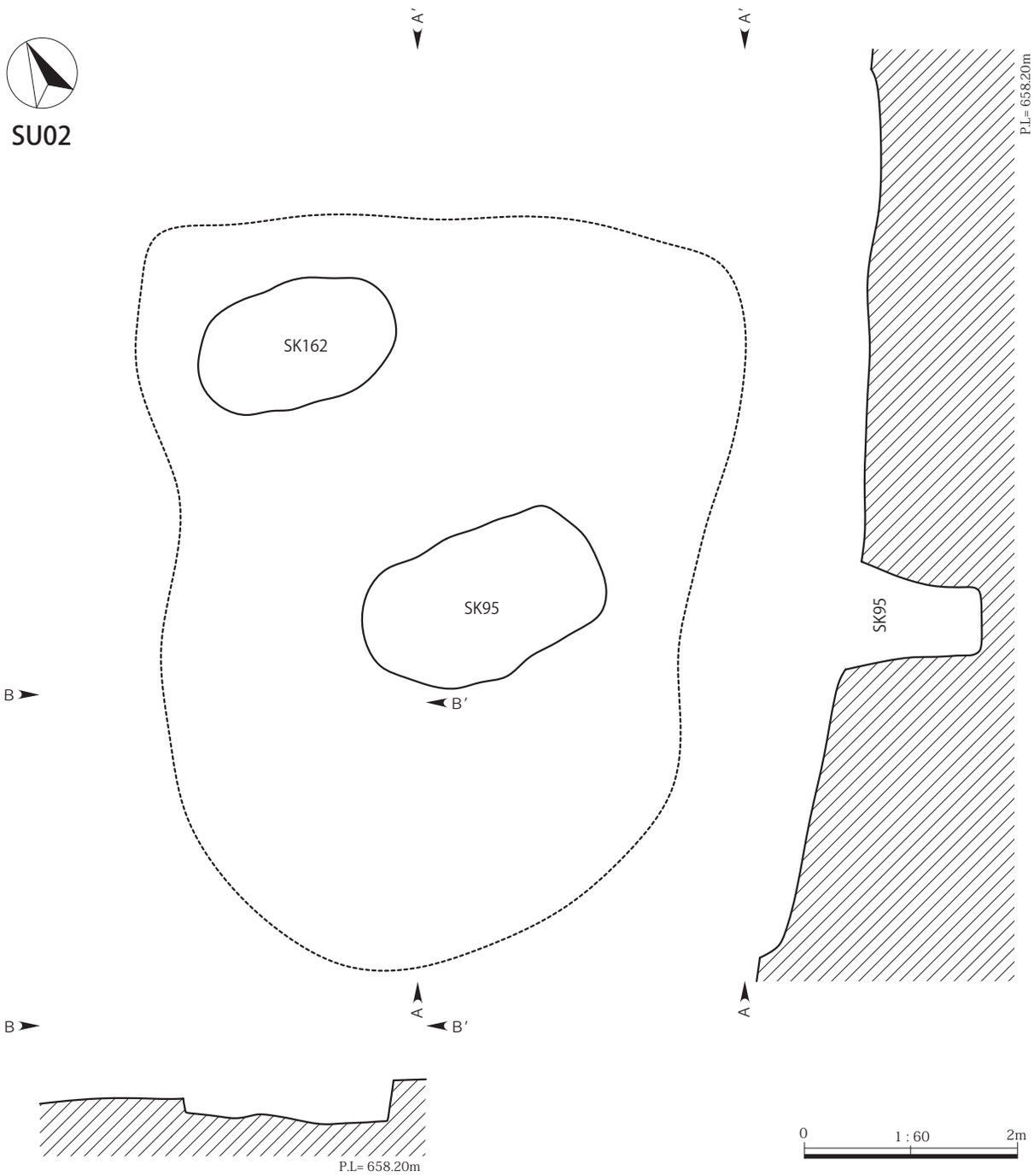


第85図　SU01出土遺物実測図（1/2・1/3・1/4）

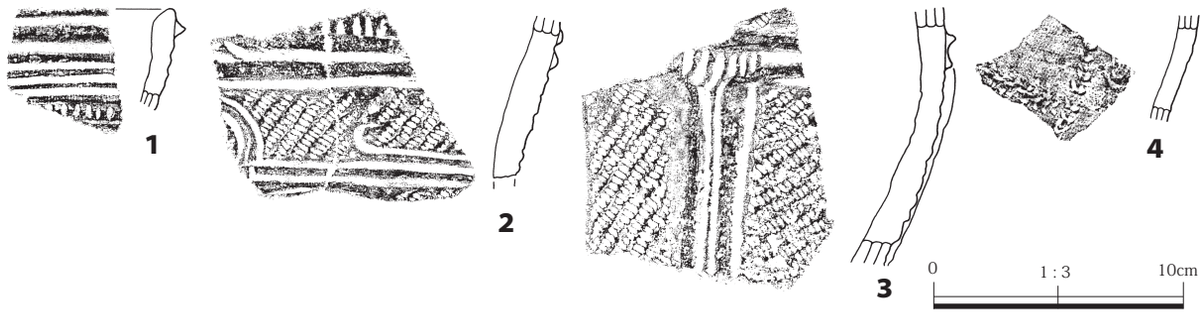
柱穴・炉なども確認されなかったため、住居跡ではなく、埋没谷の窪みに遺物が集中したものと考えられる。埋没谷は現代でも埋没しきっておらず、縄文土器と剥片以外は後世の混入物と考えられる。

２号遺物集中（SU02）（第 86・87 図／第 24 表／ＰＬ 19）

位置　２－94 区Ｄ・Ｅ－19･20　**重複関係**　SK95･162 と重複し、本遺構の方が古い。　**規模**　幅 4.9 m、長さ 7.1 mの範囲である。　**遺物出土状況**　縄文土器 52 点、剥片３点が出土した。状態の良い縄文土器の深鉢４点を図示した。　**備考**　試掘 50 号トレンチで竪穴住居跡と推定された箇所であったため、確認面での遺物出土範囲を住居範囲と仮定して、土層確認用の十字ベルトを設定し掘り下げたが、確認面から数cm程度で遺物が出土しなくなった。また人為的な掘り込み・水平な床面・柱穴・炉なども確認されなかったため、住居跡ではなく、窪地に遺物が集中したものと考えられる。



第86図　SU02実測図（1/60）



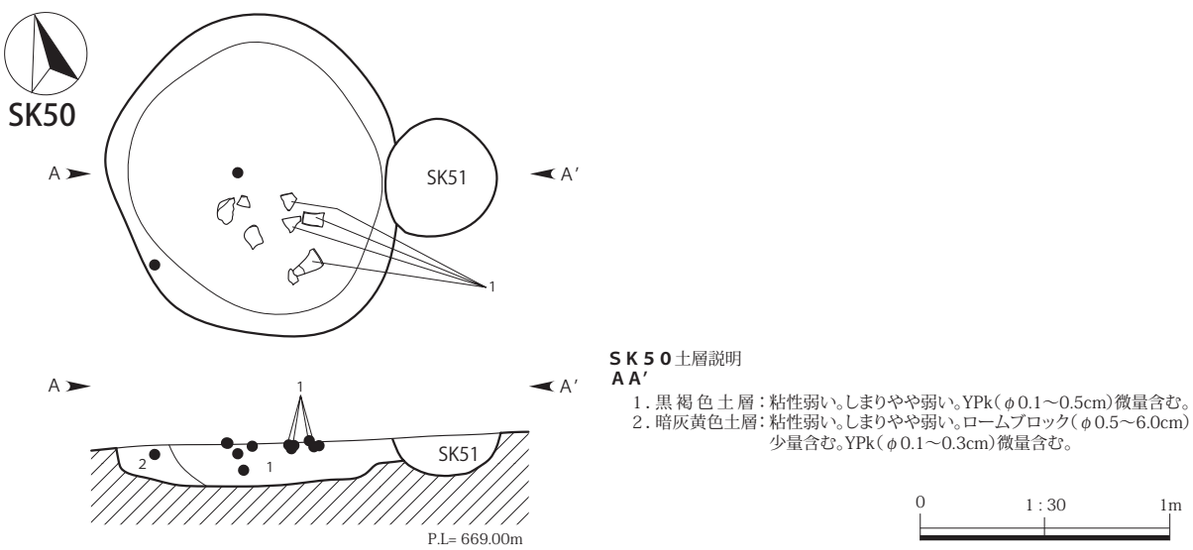
第87図　SU02出土遺物実測図（1/3）

第３節　弥生時代の遺構と遺物

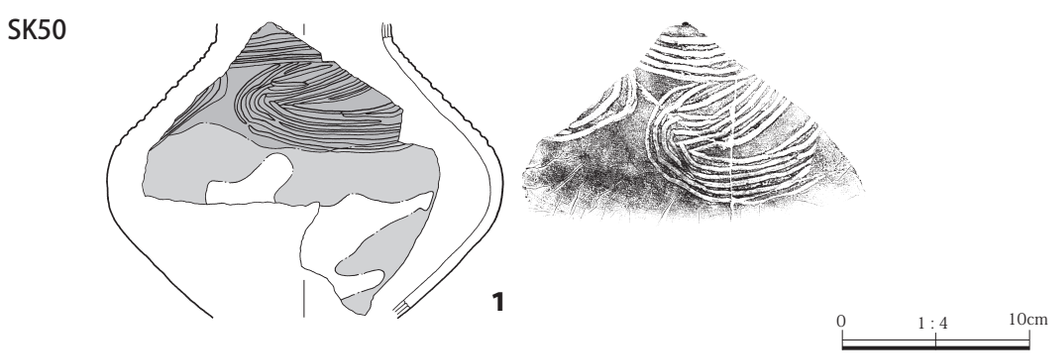
（1）土坑

SK50（第 88・89 図／第 24 表／ＰＬ 11・19）

位置　４－３区Ｊ－16　**重複関係**　SK51 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 128㎝、短軸 112㎝、深さ 16㎝。　**主軸方位**　Ｎ－16°－Ｅ　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　弥生土器の壺３点、混入と考えられる器種不明の土師器片 10 点、石器・石製品５点が出土し、弥生初期と考えられる壺形土器１点を図示した。　**備考**　出土遺物から、帰属時期は弥生時代初頭と考えられる。



第88図　SK50実測図（1/30）



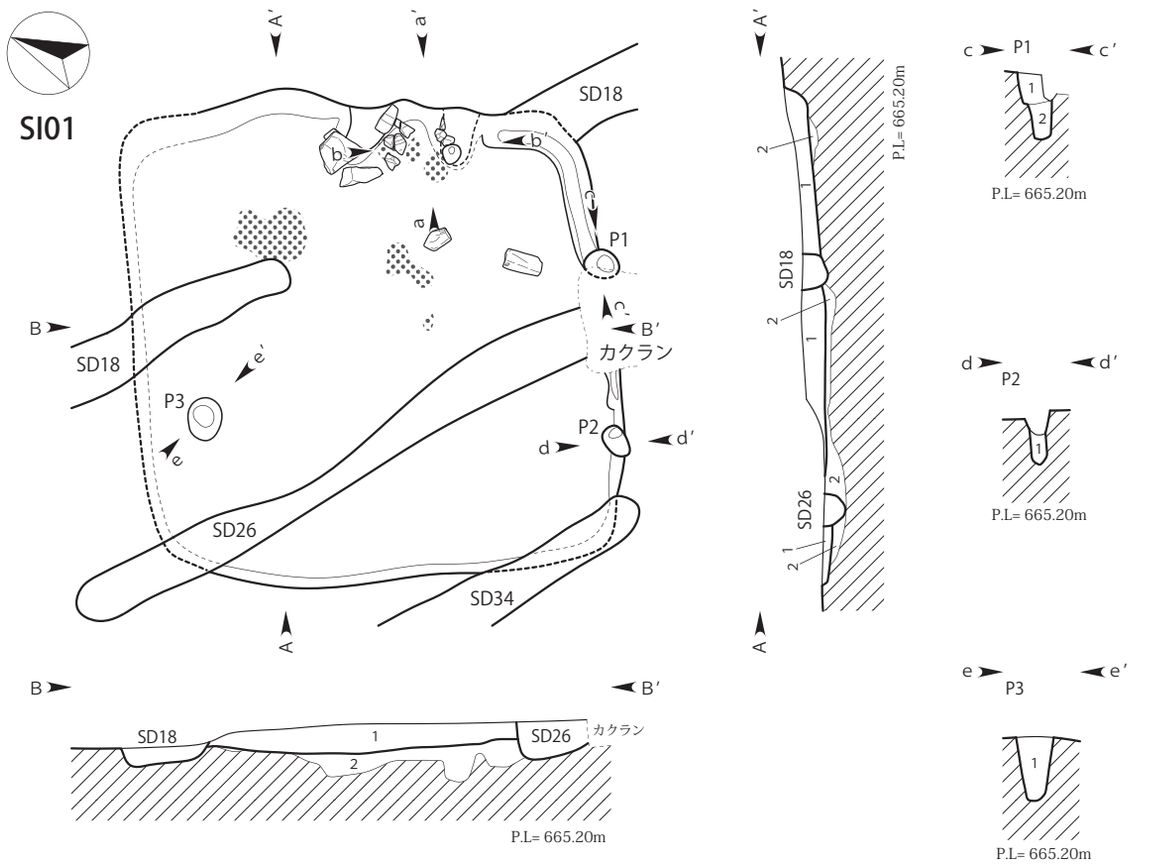
第89図　弥生時代土坑出土遺物実測図（1/4）

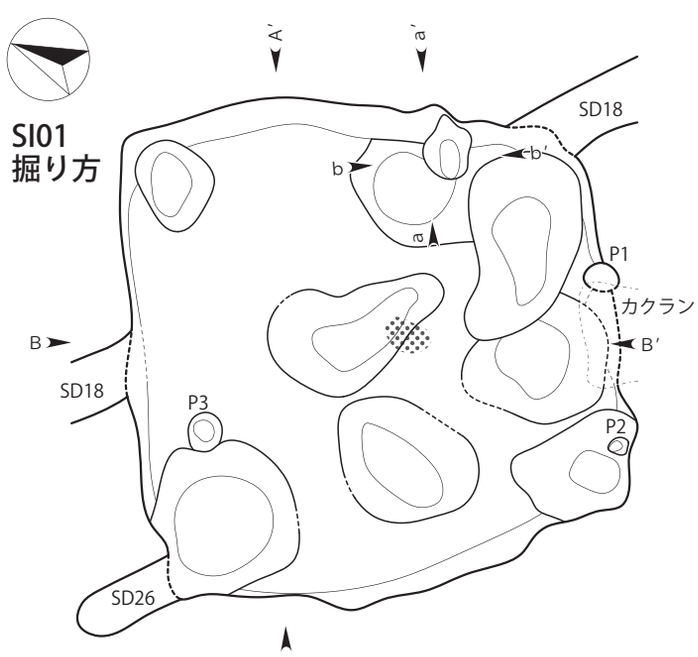
第４節　平安時代の遺構と遺物

（１）竪穴住居跡

SI01（第 90 ～ 93 図／第 15・23・24 表／ＰＬ 11・12・19）

位置　４－３区Ｒ－12　**重複関係**　SD18・26・34 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　北壁はほとんどが削平され現存しない。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈





ＳＩ０１土層説明
ＡＡ′ＢＢ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.5cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～5.0cm）・焼土粒（φ0.2～5.0cm）微量含む。

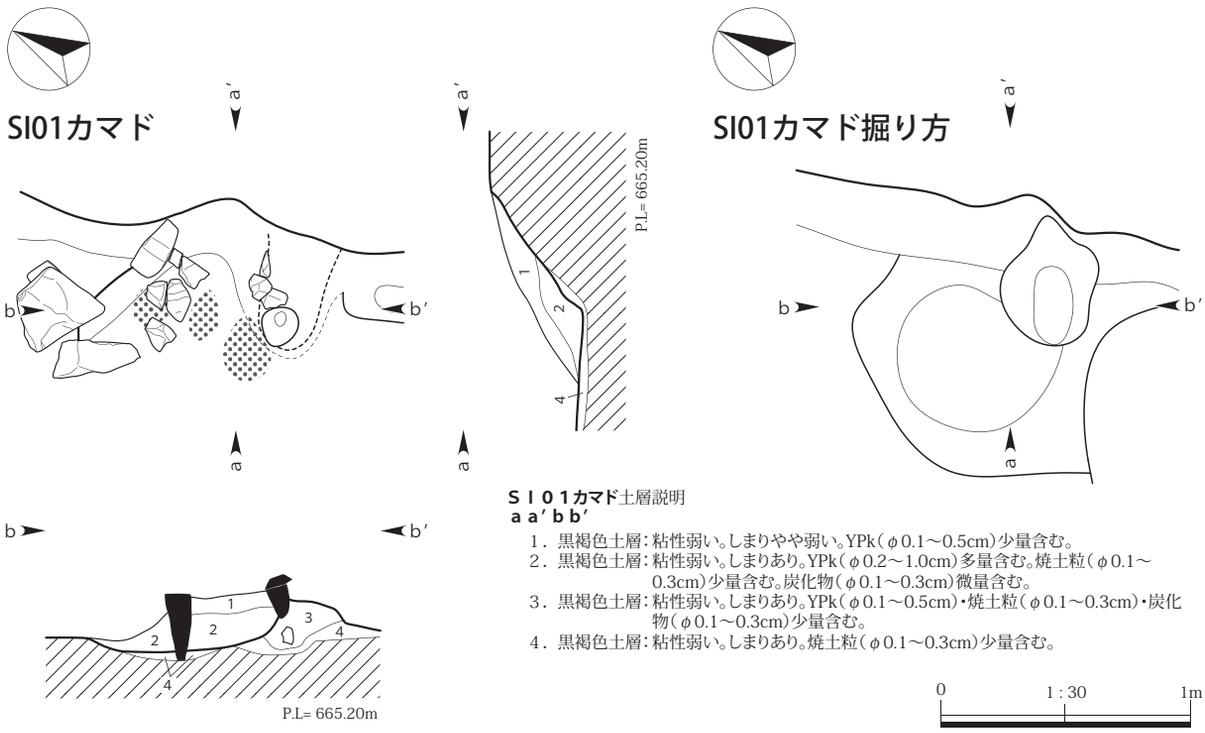
ＳＩ０１Ｐ１土層説明
ｃｃ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～1.0cm）含む。炭化物（φ0.1～0.3cm）少量含む。
2．暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。

ＳＩ０１Ｐ０２土層説明
ｄｄ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む。

ＳＩ０１Ｐ３土層説明
ｅｅ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～1.0cm）含む。

0　1：60　2m

第90図　SI01・掘り方実測図（1/60）

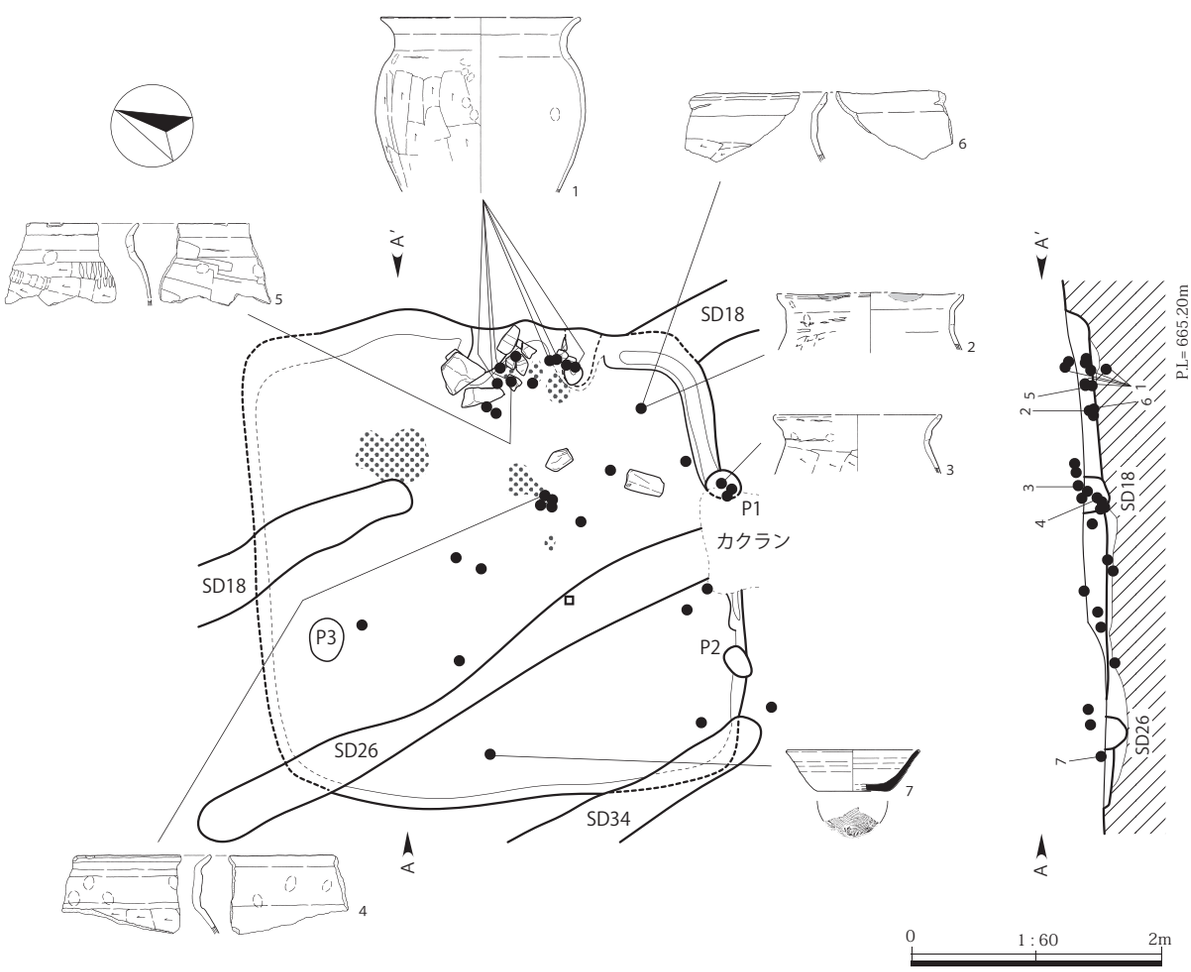


ＳＩ０１カマド土層説明
ａａ′ｂｂ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～1.0cm）多量含む。焼土粒（φ0.1～0.3cm）少量含む。炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。
3．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）少量含む。
4．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。焼土粒（φ0.1～0.3cm）少量含む。

0　1：30　1m

第91図　SI01カマド・カマド掘り方実測図（1/30）



第92図　SI01遺物出土状況図（1/60）

する。規模は主軸 3.99 m、副軸推定 3.86m、深さ 18㎝、床面積 12.02㎡。　**主軸方位**　N－67°－E　**壁・壁溝**　壁高は南壁 10㎝、西壁 4㎝、東壁 16㎝。壁溝は南東の一部でのみ確認された。溝幅は 20 ～ 30㎝、深さは 5㎝。　**床面**　直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。　**柱穴**　Ｐ１～Ｐ３を検出した。平面形は楕円形で、いずれも規模は小さい。それぞれの規模は第 15 表に記した。　**カマド**　東壁中央に位置する。全長 77㎝、最大幅 82㎝。火床面は 3㎝掘り込まれ、焼土部分は 2㎝の厚さを有する。支持材として使用されたと見られる切石・自然石が散乱している。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　土師器甕 255 点、須恵器杯３点、陶磁器片１点、不明鉄製品１点が出土した。　**遺物**　コの字状口縁甕を含む土師器甕６点と須恵器杯１点を図示した。　**備考**　本遺構は小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から９世紀後半と考えられる。

第 15 表　SI01 ピット計測表

	P1	P2	P3
長軸長（㎝）	26	27	34
短軸長（㎝）	23	16	26
深　さ（㎝）	27	23	50

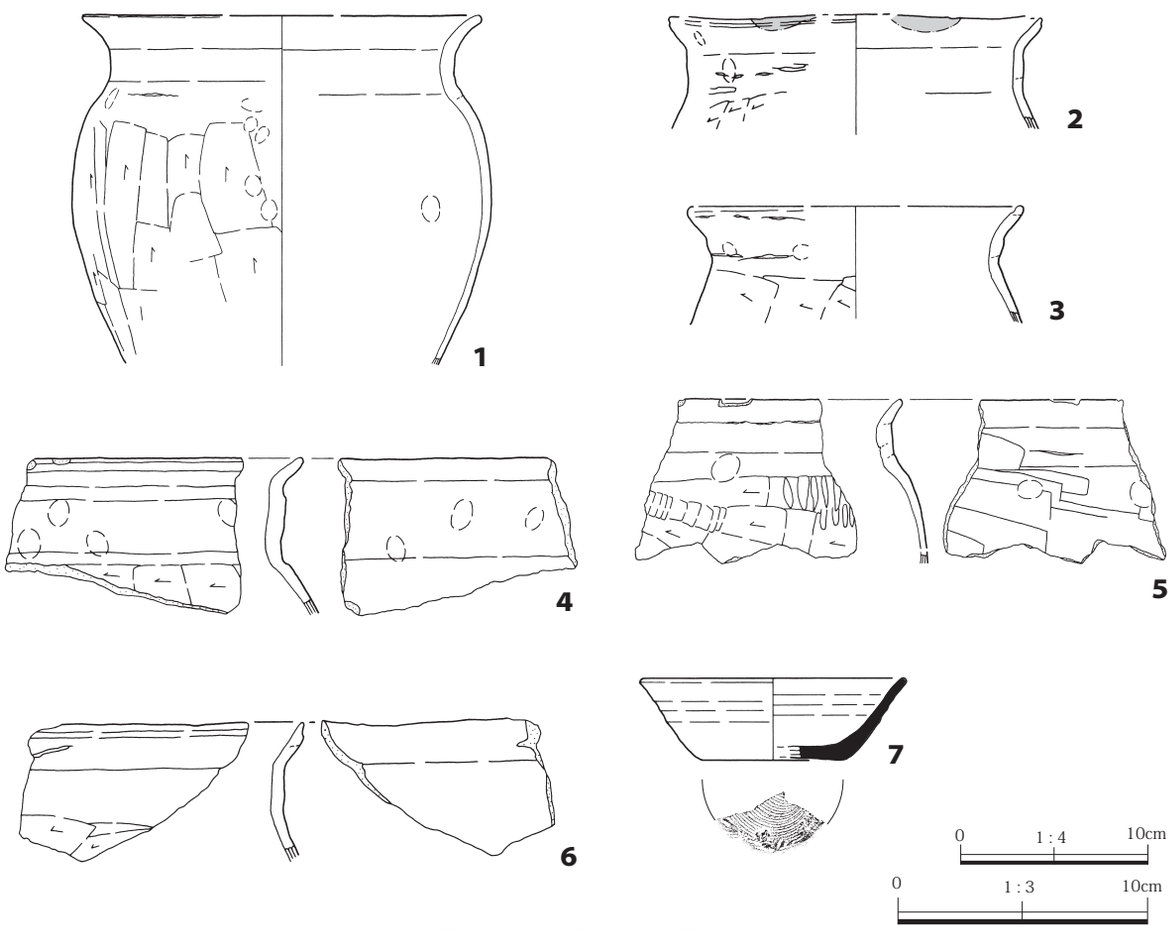
SI02（第 94 ～ 98 図／第 16・23・24 表／ＰＬ 12・14・19）

位置　４－３区Ｔ－14　**重複関係**　SK76・119、SD26 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　概ね良好。

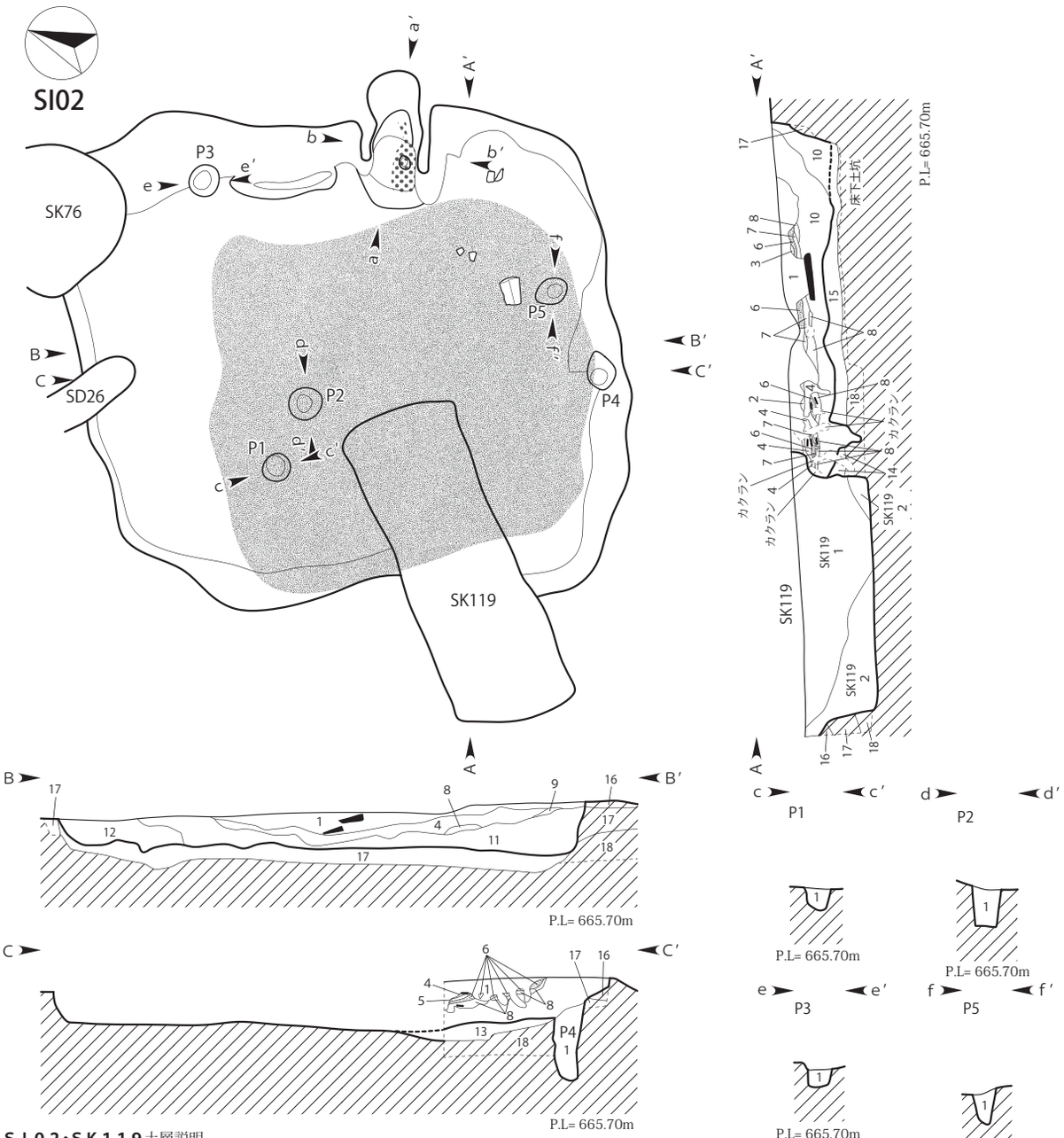
覆土　黒褐色土が基調で、上層にはテフラが堆積する。テフラは３層に大別され、As-B（1108 年）、As-Kk（1128 年）、仮称上野火山灰（第９編第１章参照）と推定される。人為堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸長方形を呈する。規模は主軸 4.56 m、副軸 4.88 m、深さ 50㎝、床面積 16.72㎡。　**主軸方位**　N－60°－E

壁・壁溝　北壁 19㎝、南壁 43㎝、西壁 57㎝、東壁 56㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

床面　直床式である。東側の一部で踏み締りが確認された。　**柱穴**　Ｐ１～Ｐ５を検出した。平面形は円形・楕円形が主体である。それぞれの規模は第 16 表に記した。　**カマド**　東壁中央やや南寄りに位置する。全長



第93図　SI01出土遺物実測図（1/3・1/4）



ＳＩ０２・ＳＫ１１９土層説明
ＡＡ′ＢＢ′ＣＣ′

1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）含む。炭化物（φ0.5～1.0cm）少量含む。
2．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
3．黒 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1cm）微量含む。
4．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。仮称上野火山灰主体。
5．黄 灰 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1cm）少量含む。
6．暗 灰 黄 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。As-Kk主体。
7．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。
8．暗オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。As-B主体。
9．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。As-B（φ0.3～1.0cm）少量含む。
10．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.2～0.5cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
11．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.3cm）含む。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
12．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.3～1.0cm）含む。
13．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）含む。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
14．暗 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。
15．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）含む。ロームブロック（φ0.2～1.0cm）少量含む。
16．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
17．暗 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む。
18．黄 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＩ０２Ｐ１土層説明
ｃｃ′

1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。

ＳＩ０２Ｐ２土層説明
ｄｄ′

1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。

ＳＩ０２Ｐ３土層説明
ｅｅ′

1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）・炭化物（φ0.2～1.5cm）微量含む。

ＳＩ０２Ｐ４土層説明
ＣＣ′

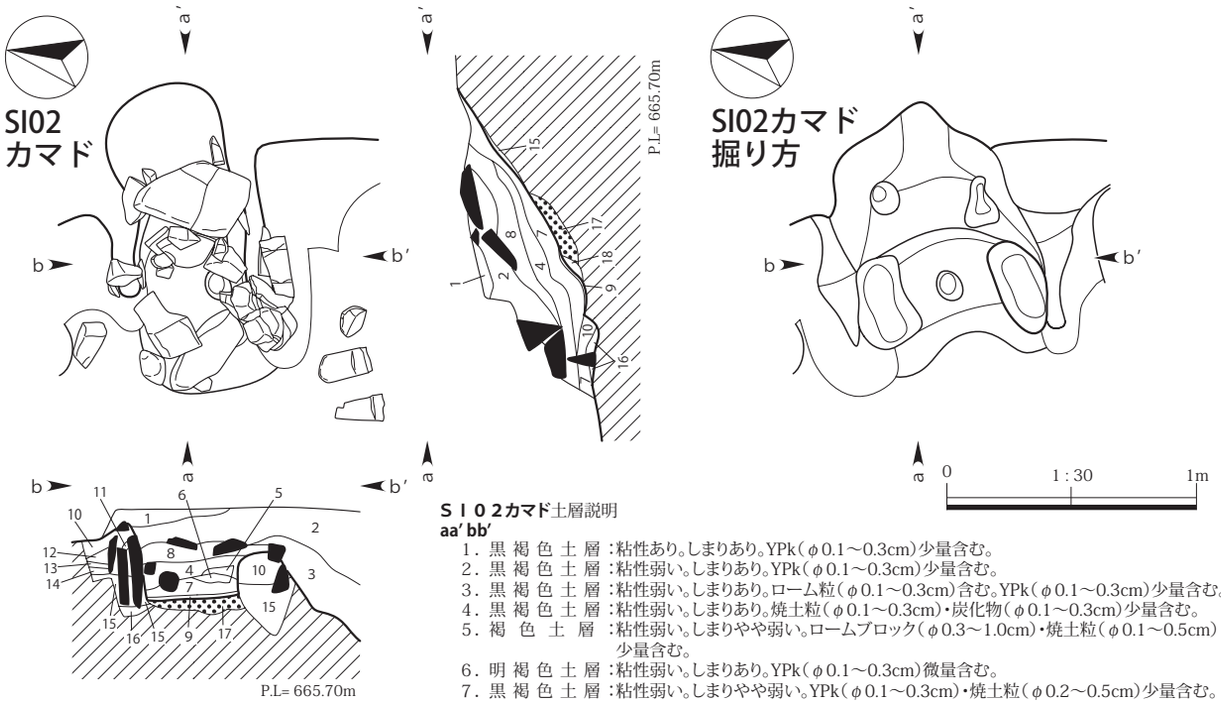
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＩ０２Ｐ５土層説明
ｆｆ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～2.0cm）微量含む。

0　1：60　2m

第94図　SI02・SK119実測図（1/60）

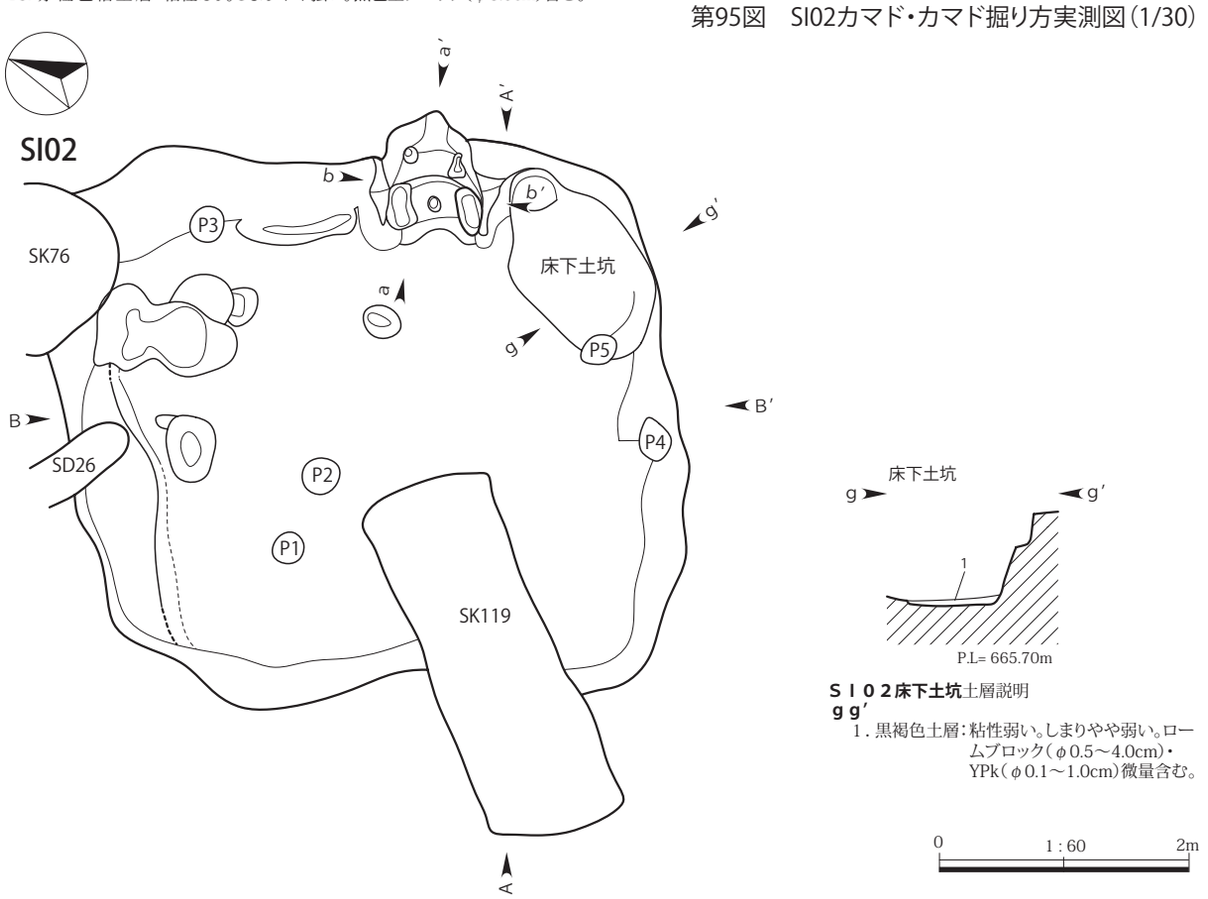


ＳＩ０２カマド土層説明

aa′bb′

1．黒 褐 色 土 層 ：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
2．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
3．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.3cm）含む。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
4．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。焼土粒（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）少量含む。
5．褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.3～1.0cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。
6．明 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
7．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.2～0.5cm）少量含む。
8．褐 灰 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。炭化物（φ0.5～1.0cm）少量含む。焼土粒（φ0.5～1.0cm）微量含む。
9．浅 黄 橙 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.2cm）・ロームブロック（φ0.5～2.0cm）・１層土ブロック（φ1.0～3.0cm）含む。
10．黒 色 土 層 ：粘性あり。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.05～0.1cm）微量含む。
11．橙 色 土 層 ：粘性あり。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
12．浅黄橙色粘土層：粘性あり。しまりあり。４層土ブロック（φ0.3～0.5cm）含む。
13．黒 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ1.0cm）少量含む。
14．浅黄橙色粘土層：粘性あり。しまりあり。４層土ブロック（φ0.05～0.1cm）含む。
15．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.05～0.2cm）含む。ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・焼土粒（φ0.05～0.1cm）少量含む。
16．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.05～0.2cm）含む。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）少量含む。焼土粒（φ0.05～0.1cm）微量含む。
17．赤 色 粘 土 層 ：粘性あり。しまりやや強い。
18．赤 橙 色 粘 土 層 ：粘性あり。しまりやや強い。黒色土ブロック（φ3.0cm）含む。

第95図　SI02カマド・カマド掘り方実測図（1/30）



ＳＩ０２床下土坑土層説明

ｇｇ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。

第96図　SI02掘り方実測図（1/60）

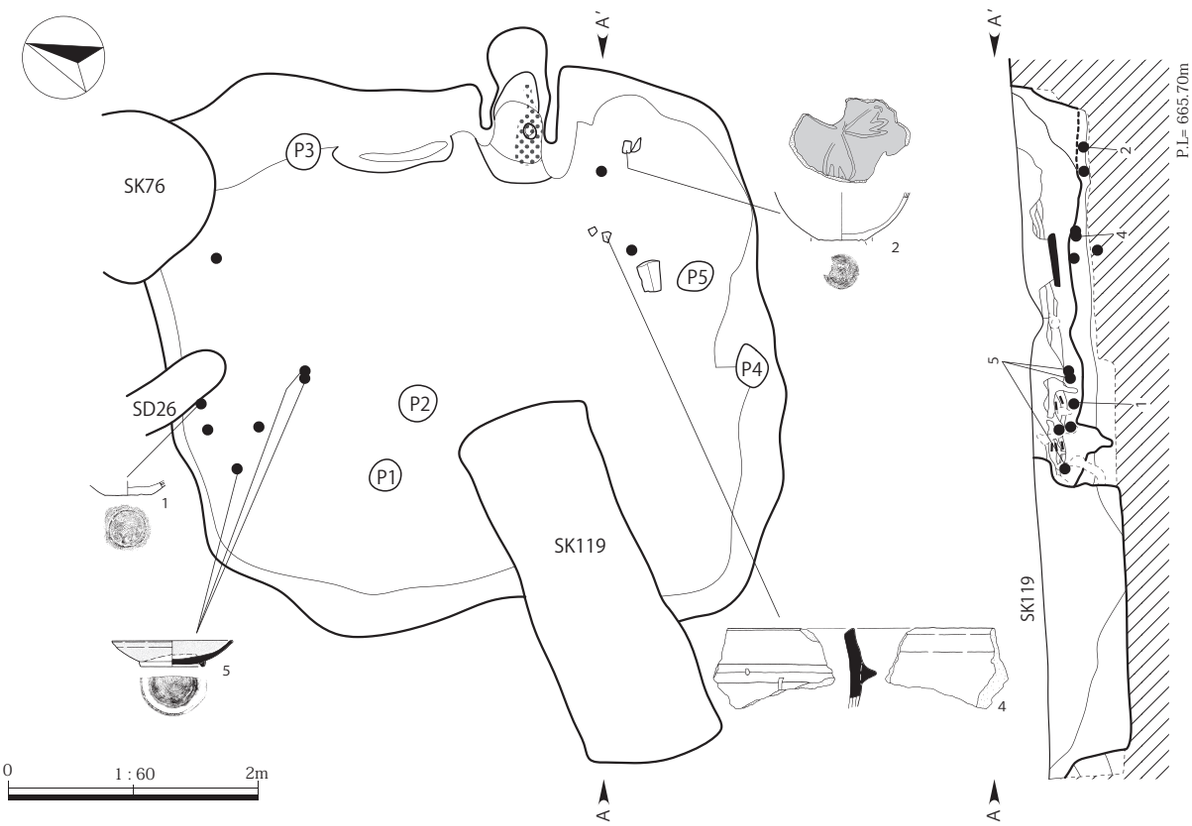
123㎝、最大幅 84㎝。火床面は 3㎝掘り込まれ、焼土部分は 2㎝の厚さを有する。遺存状態は良好で、天井部が崩落せず残っていた。

第 16 表　SI02 ピット計測表

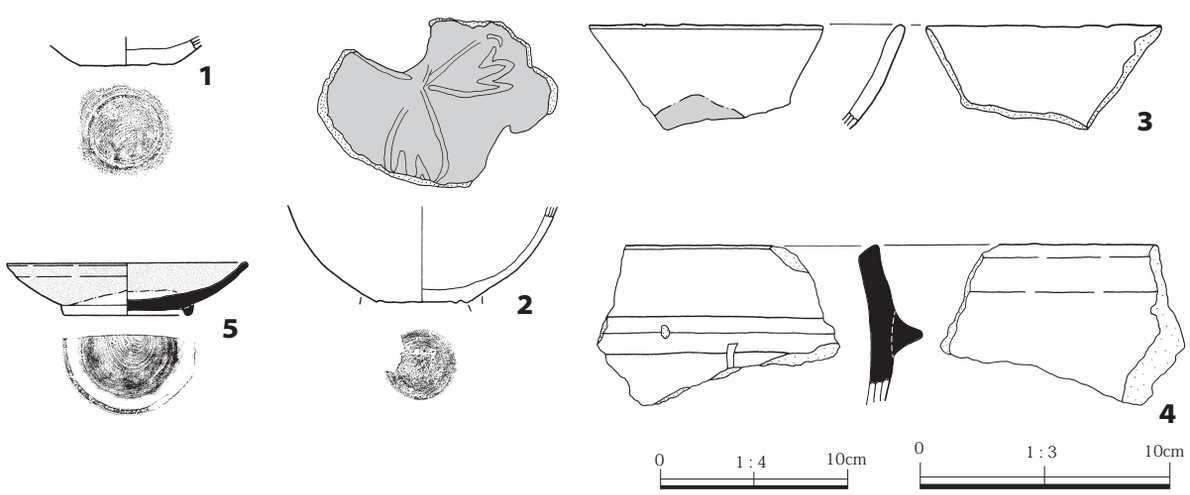
	P1	P2	P3	P4	P5	床下土坑
長軸長（㎝）	25	29	28	27	28	170
短軸長（㎝）	25	28	28	26	23	91
深　さ（㎝）	19	32	14	64	29	6

その他の施設　カマドの南側に長軸 170㎝、短軸 91㎝、深さ 6㎝の楕円形の土坑が確認された。床面から掘り込まれており、住居に伴う床下土坑と考えられる。　**遺物出土状況**　土師器甕３点、土師器杯８点、須恵器の羽釜２点、器種不明の須恵器片２点、灰釉陶器の皿１点、磨石１点などが出土した。

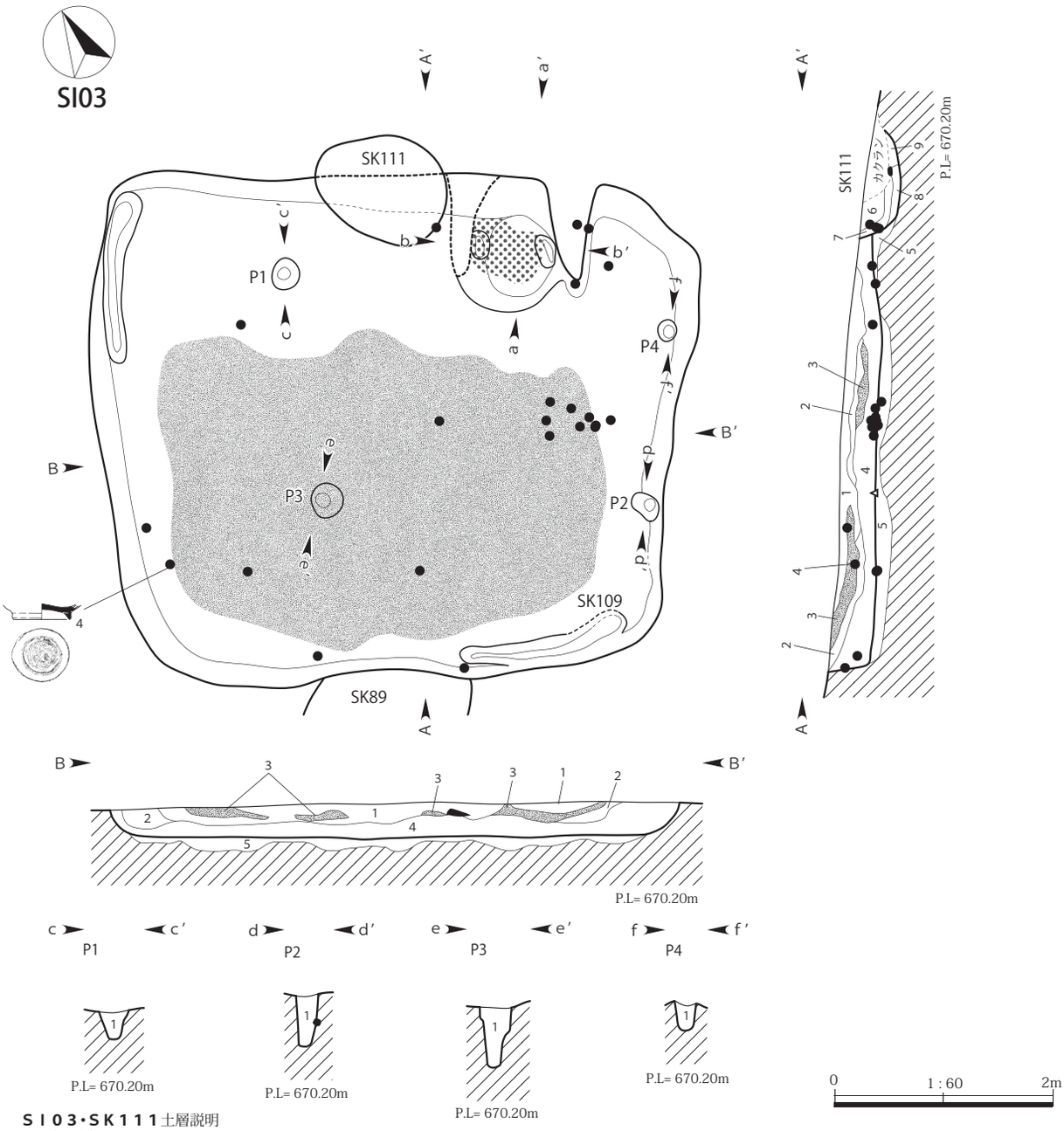
遺物　土師器杯３点、須恵器の羽釜１点、灰釉陶器の皿１点を図示した。　**備考**　本遺構は中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から 10 世紀前半と推定される。



第97図　SI02遺物出土状況図（1/60）



第98図　SI02出土遺物実測図（1/3・1/4）



ＳＩ０３・ＳＫ１１１土層説明

ＡＡ′ＢＢ′

1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
2．黒 色 土 層 ：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
3．灰オリーブ色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。As‐Kk（φ0.5～10.0cm）多量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
4．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）・BP（φ0.2～3.0cm）微量含む。
5．暗 灰 黄 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）少量含む。YPk（φ0.1～1.0cm）・炭化物（φ0.2～2.5cm）微量含む。
6．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
7．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。炭化物（φ0.2～1.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
8．オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。
9．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～2.0cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＩ０３Ｐ１土層説明

ｃｃ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）・BP（φ0.2～0.5cm）微量含む。

ＳＩ０３Ｐ２土層説明

ｄｄ′

1．黒色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）・BP（φ0.3～1.5cm）微量含む。

ＳＩ０３Ｐ３土層説明

ｅｅ′

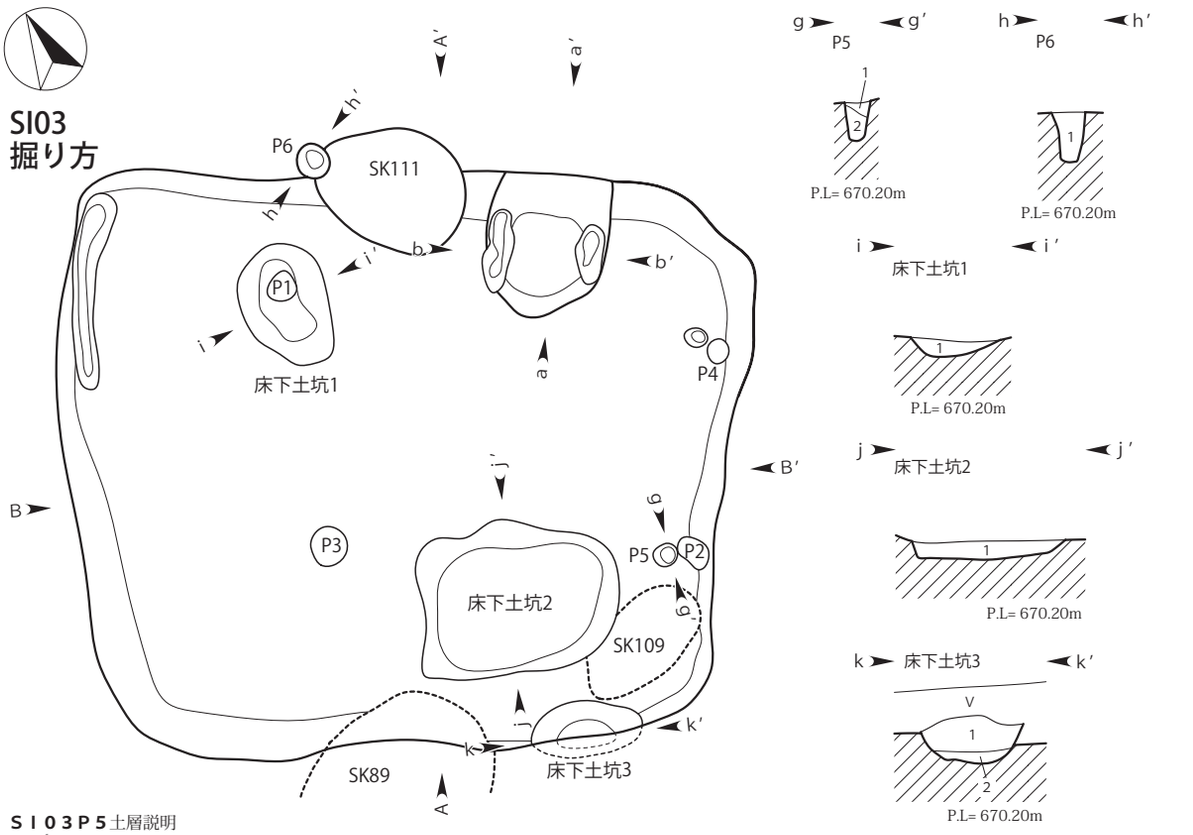
1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりなし。ローム粒（φ0.1～0.4cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～3.5cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＩ０３Ｐ４土層説明

ｆｆ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）・BP（φ0.3～4.0cm）微量含む。

第99図　SI03実測図・遺物出土状況図（1/60）



ＳＩ０３Ｐ５土層説明
ｇｇ′
1．黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.2～1.0cm）少量含む。

ＳＩ０３Ｐ６土層説明
ｈｈ′
1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～3.0cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＩ０３床下土坑１土層説明
ｉｉ′
1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～5.0cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＩ０３床下土坑２土層説明
ｊｊ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）多量含む。

ＳＩ０３床下土坑３土層説明
ｋｋ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。

0　1：60　2m

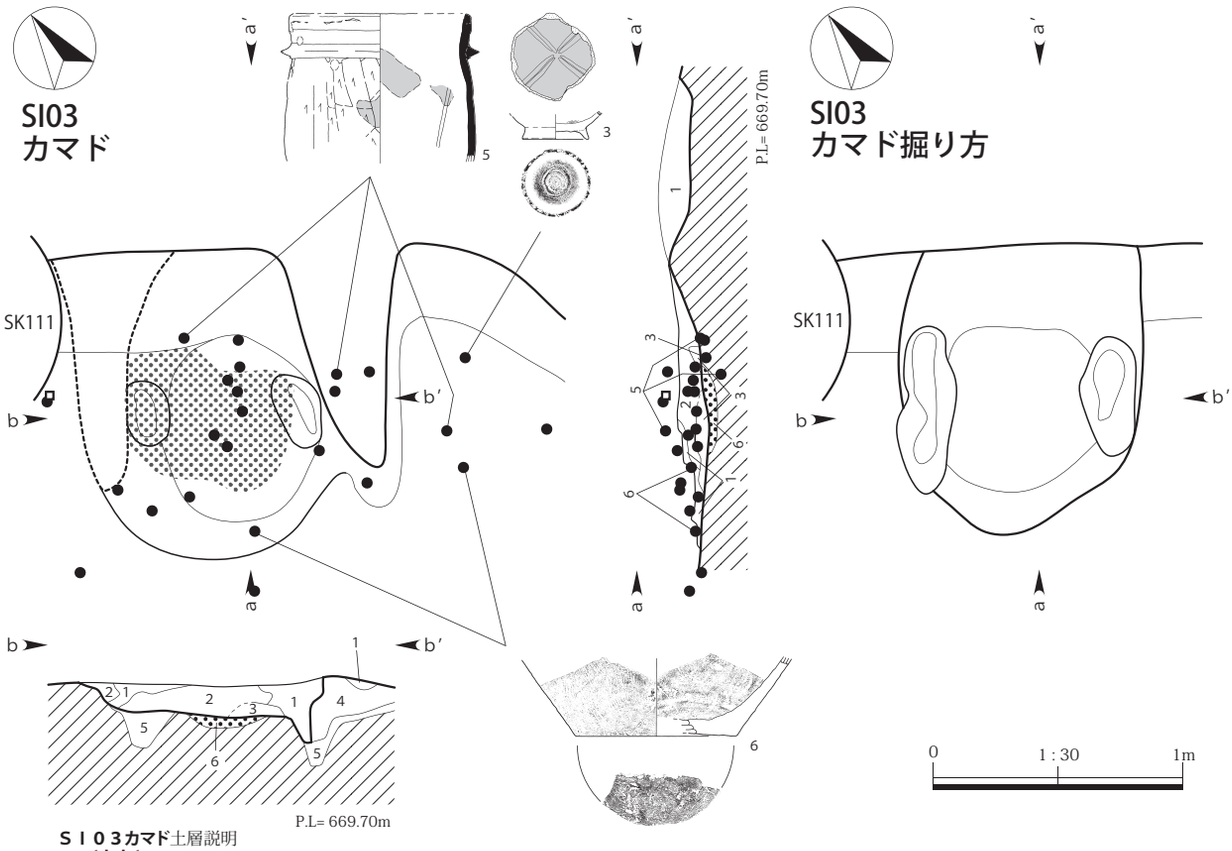
第100図　SI03掘り方実測図（1/60）

SI03（第 99 ～ 102 図／第 17・23・24 表／ＰＬ 13・14・20）

位置　４－３区Ｍ－ 18　**重複関係**　SK89・109・111 と重複し、SK111 より古く、SK89・109 より新しい。　**遺存状態**　概ね良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸 4.62 m、副軸 5.60 m、深さ 31㎝、床面積 20.03㎡。　**主軸方位**　Ｎ－ 28°－Ｅ　**壁・壁溝**　北壁 7㎝、南壁 26㎝、西壁 20㎝、東壁 26㎝。壁溝は南西壁と北西壁の一部で確認された。溝幅は 20㎝、深さは５cm。　**床面**　直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。　**柱穴**　Ｐ１～Ｐ６を検出した。平面形は円形・楕円形主体。それぞれの規模は第 17 表に記した。　**カマド**　北壁中央東寄りに位置し、上層が削平されている。全長 148㎝、最大幅 97㎝。火床面は 4㎝掘り込まれ、焼土部分は 4㎝の厚さを有する。周

第 17 表　SI03 ピット計測表

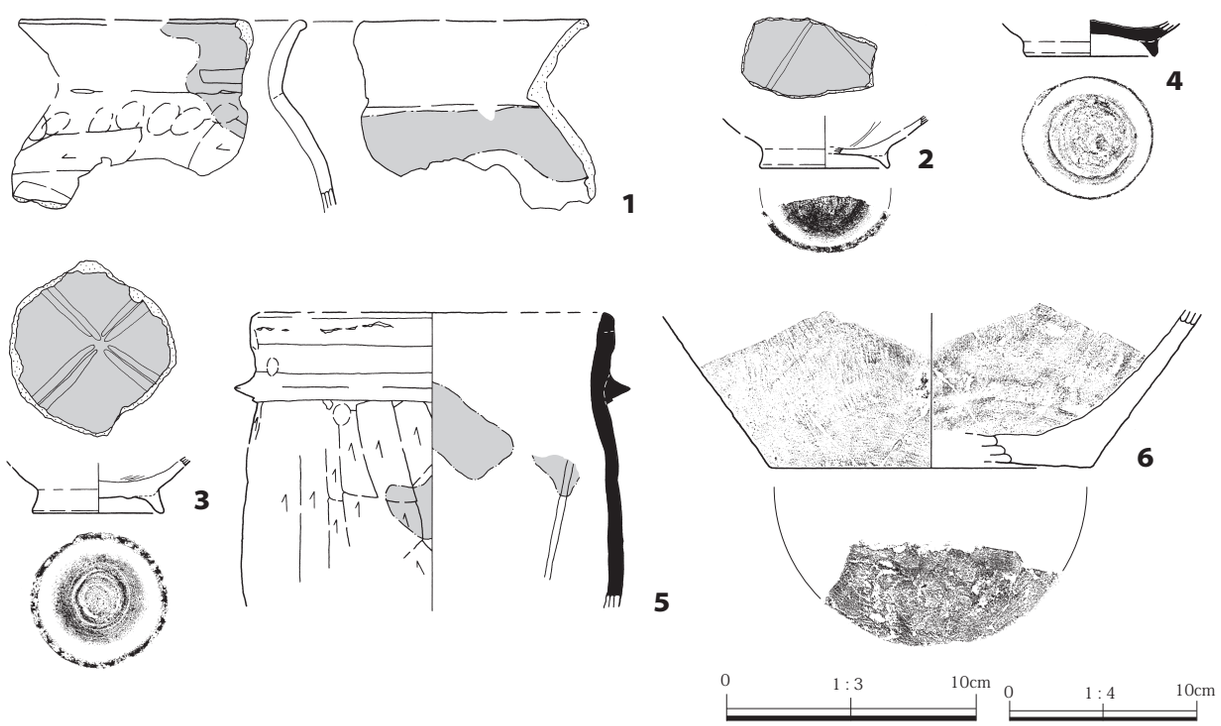
	P1	P2	P3	P4	P5	P6	床下土坑 1	床下土坑 2	床下土坑 3
長軸長（㎝）	28	37	32	18	20	27	101	157	(27)
短軸長（㎝）	24	18	29	16	18	26	81	122	88
深　さ（㎝）	23	44	54	22	29	38	13	14	36



ＳＩ０３カマド土層説明
ａａ′ｂｂ′

1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）・炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。
2．暗 灰 黄 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）・焼土粒（φ0.2～1.0cm）微量含む。
3．明 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。焼土粒（φ0.2～3.0cm）含む。炭化物（φ0.3～1.5cm）微量含む。
4．オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～1.5cm）・炭化物（φ0.3～1.0cm）微量含む。
5．暗 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。焼土粒（φ0.1～2.0cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。
6．褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。焼土粒（φ0.1～0.5cm）多量含む。

第101図　SI03カマド・カマド掘り方実測図（1/30）

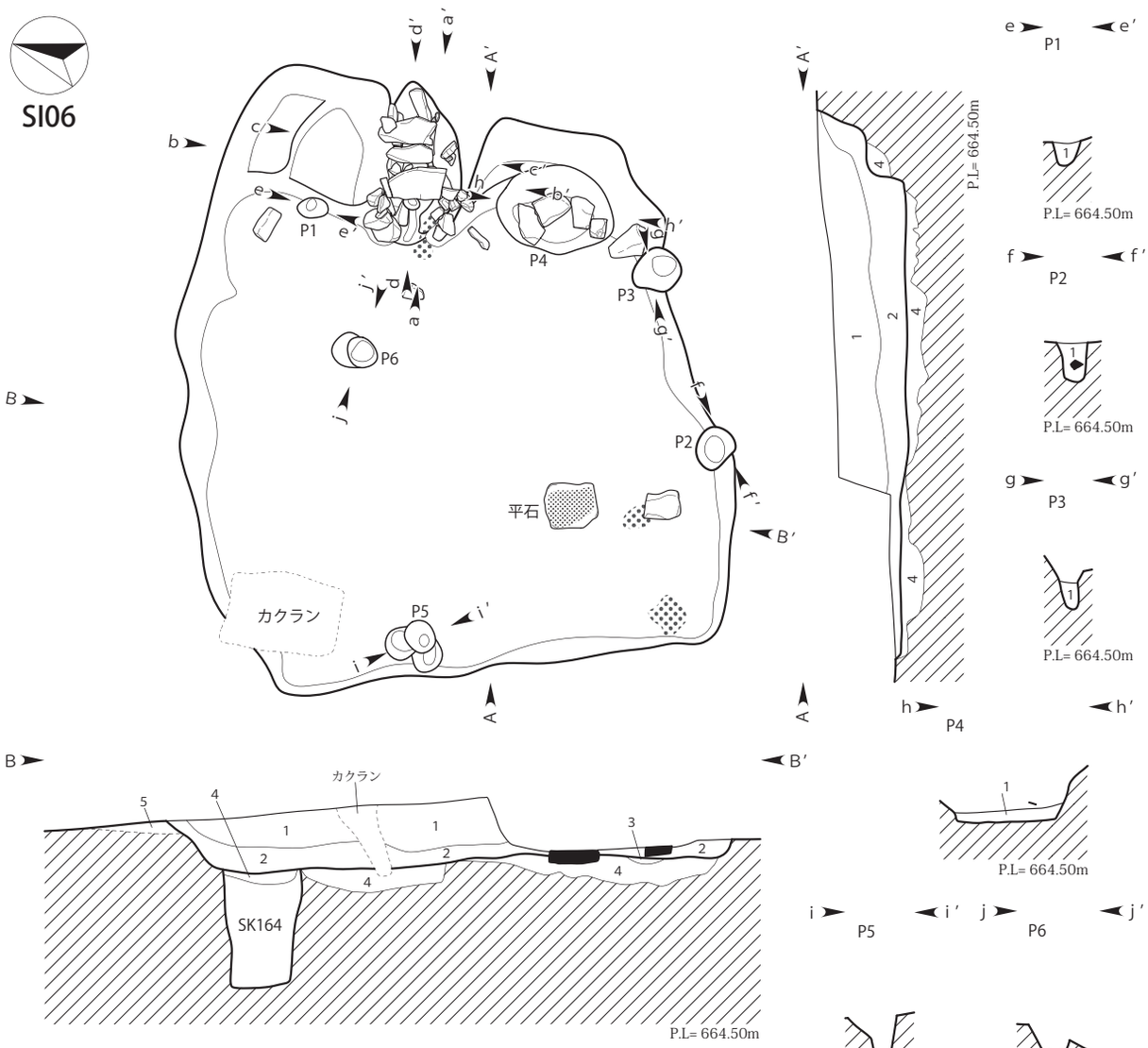


第102図　SI03出土遺物実測図（1/3・1/4）

辺に支持材と見られる石材が散乱し、東側には袖部が残存していた。　**その他の施設**　床下土坑３基が確認された。平面形や規模などは 17 表に記載した。　**遺物出土状況**　土師器甕 17 点、土師器杯４点、須恵器甕 14 点、須恵器杯２点、須恵器の羽釜２点、陶器の甕６点、灰釉陶器片７点などが出土した。　**遺物**　土師器甕１点、土師器杯２点、須恵器杯１点、須恵器の羽釜１点、陶器の甕１点を図示した。　**備考**　本遺構は中型の竪穴住居跡である。覆土は SI02 と同じく、As-Kk が堆積している。１軒だけ、他の３軒と離れた台地上に立地する。帰属時期は、出土遺物から 10 世紀前半と推定される。

SI06（第 103 ～ 109 図／第 18・23・24 表／ＰＬ 13・14・20）

位置　４－３区Ｑ－ 13　**重複関係**　SK164 と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　概ね良好。　**覆**

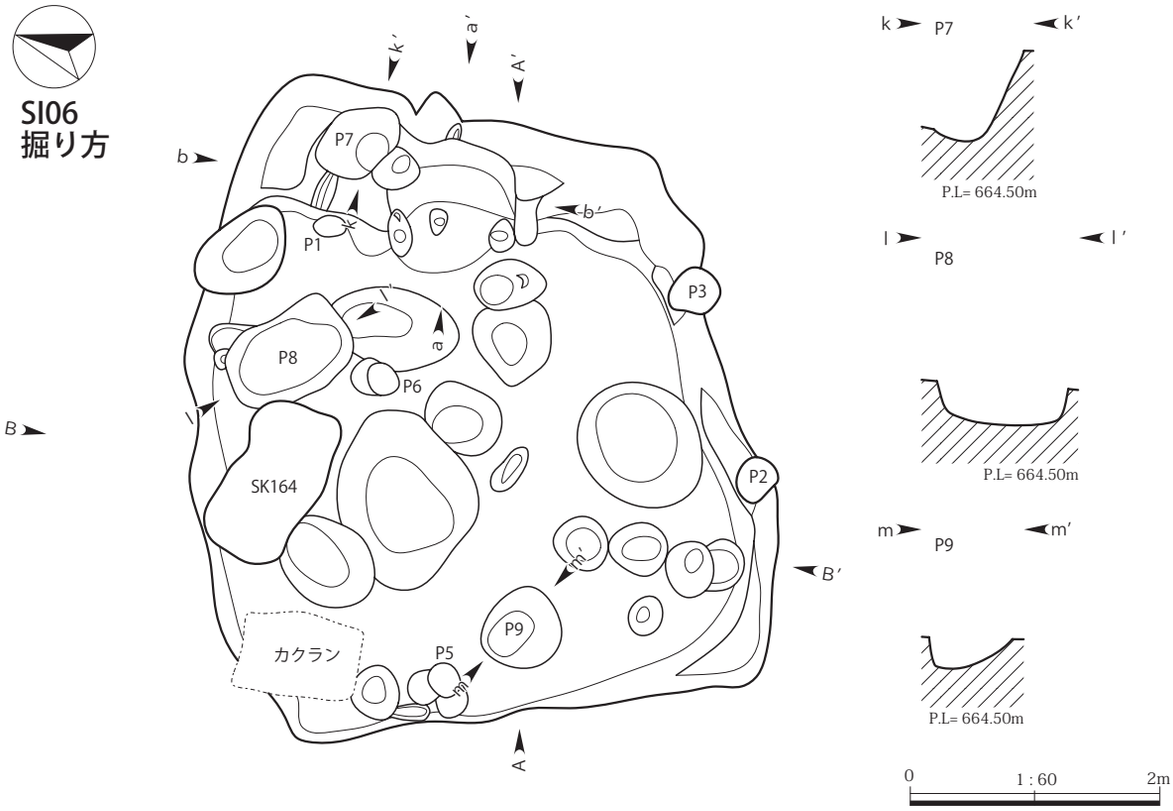


ＳＩ０６土層説明
ＡＡ′ＢＢ′
カクラン 灰黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）含む。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
1．黒 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。黒色土ブロック（φ5.0～10.0cm）含む。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
2．黒 褐 色 土 層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.5～1.0cm）少量含む。
3．橙 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。
4．灰黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.05～1.5cm）・焼土粒（φ0.5～1.5cm）含む。炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む。
5．褐 灰 色 土 層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）少量含む。

ＳＩ０６Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４土層説明
ｅｅ′ｆｆ′ｇｇ′ｈｈ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック（φ1.0～3.0cm）・炭化物（φ0.5～1.0cm）少量含む。

0　1：60　2m

第103図　SI06実測図（1/60）

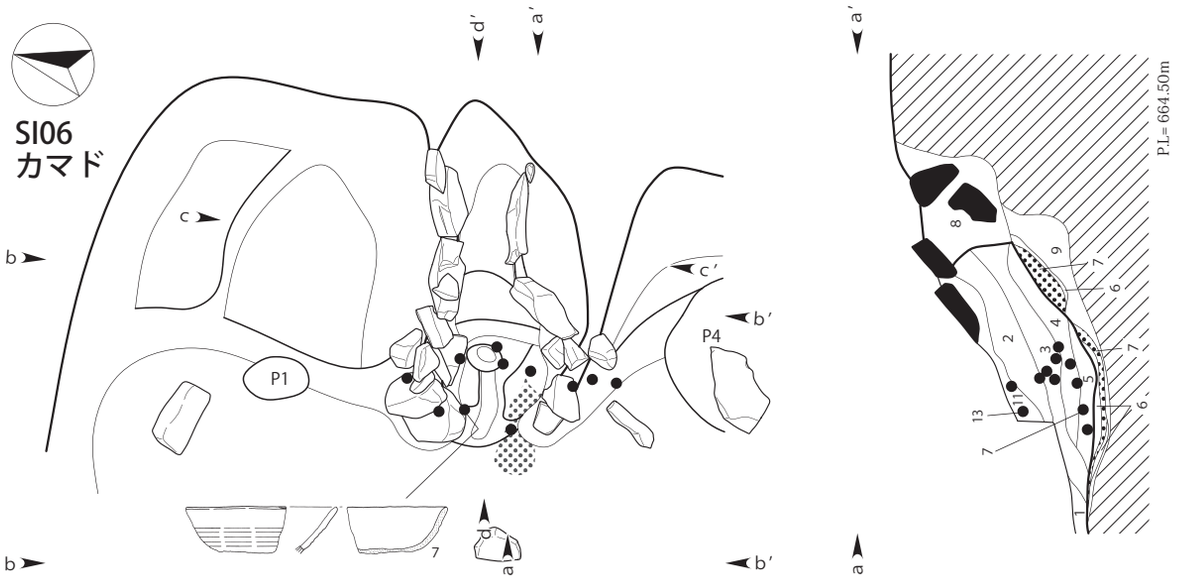


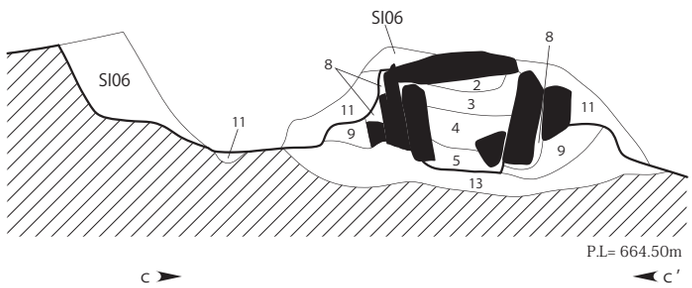
第104図　SI06掘り方実測図（1/60）

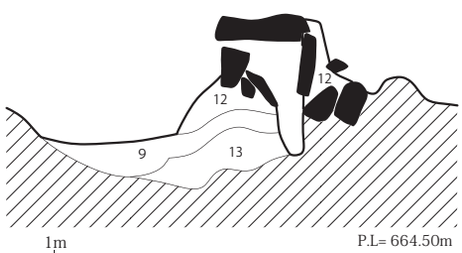
土　黒色～黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸 5.26 m、副軸 4.58 m、深さ 68㎝。　**主軸方位**　N－65°－E　**壁・壁溝**　北壁 41㎝、南壁 14㎝、西壁 4㎝、東壁 69㎝。南西側は上部が削平されているため、壁の立ち上がりはほとんど残っていなかった。壁溝は見られなかった。東壁は直立する壁とはならず、段差がある。　**床面**　直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。　**柱穴**　床上でＰ１～３、掘り方でＰ５・６を検出した。深さや配置からＰ２・３・５・６は主柱穴と考えられる。Ｐ６では底面に柱アタリが見られた。それぞれの規模は第 18 表に記した。　**カマド**　東壁中央に位置する。全長 137㎝、最大幅 98㎝、火床面は 3㎝掘り込まれ、焼土部分は 4㎝の厚さを有する。残存状況は良好で、天井石を含む支持材が残っていた。　**その他の施設**　カマドの脇で楕円形の土坑（Ｐ４）が検出された。床面から掘り込まれており、住居に伴う貯蔵穴と考えられる。Ｐ７～９は床下土坑である。　**遺物出土状況**　コの字状口縁甕を含む土師器の甕・杯、須恵器の甕・杯椀類を主体として、縄文土器片１点、土師器 497 点、羽釜を含む須恵器 112 点、土師質土器４点、灰釉陶器１点、砥石１点、チャートの石核１点、鉄製品・鉄滓３点が出土した。　**遺物**　土師器の甕３点、杯・台付甕各１点、須恵器の甕３点、椀３点、杯・鉢各１点、土師質土器の杯、砥石各１点を図示した。　**備考**　本遺構は中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から９世紀後半～ 10 世紀前半と推定される。

第 18 表　SI06 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
長軸長（㎝）	25	35	42	99	27	27	70	104	66
短軸長（㎝）	17	30	37	74	23	23	48	68	61
深　さ（㎝）	20	32	29	10	37	23	72	35	25





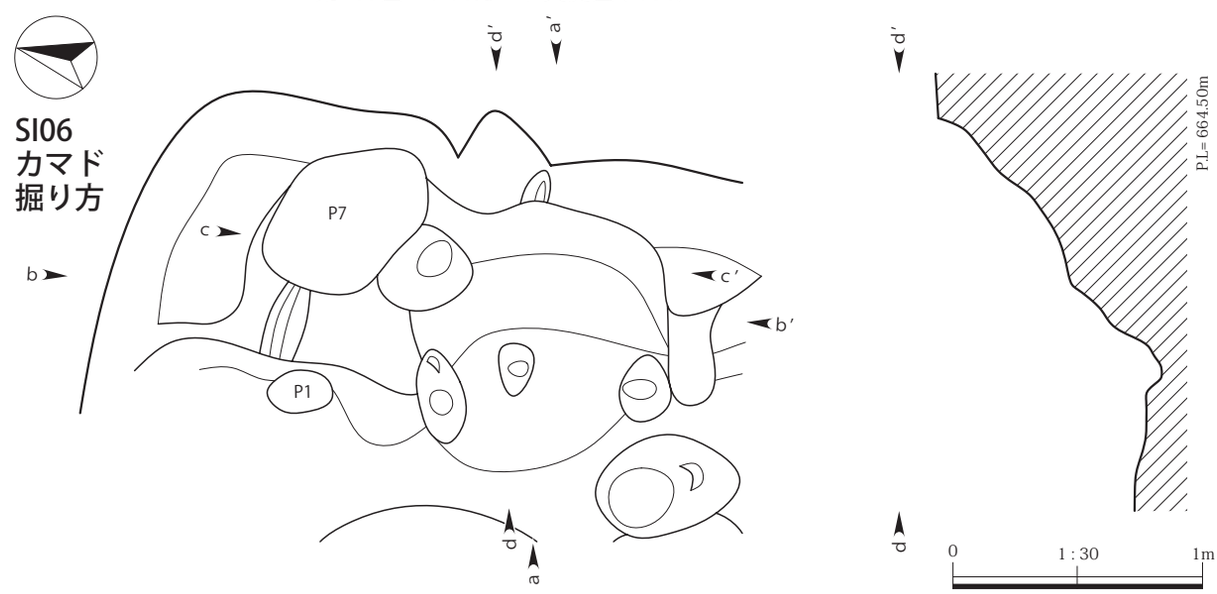


0　1 : 30　1m

第105図　SI06カマド実測図（1/30）

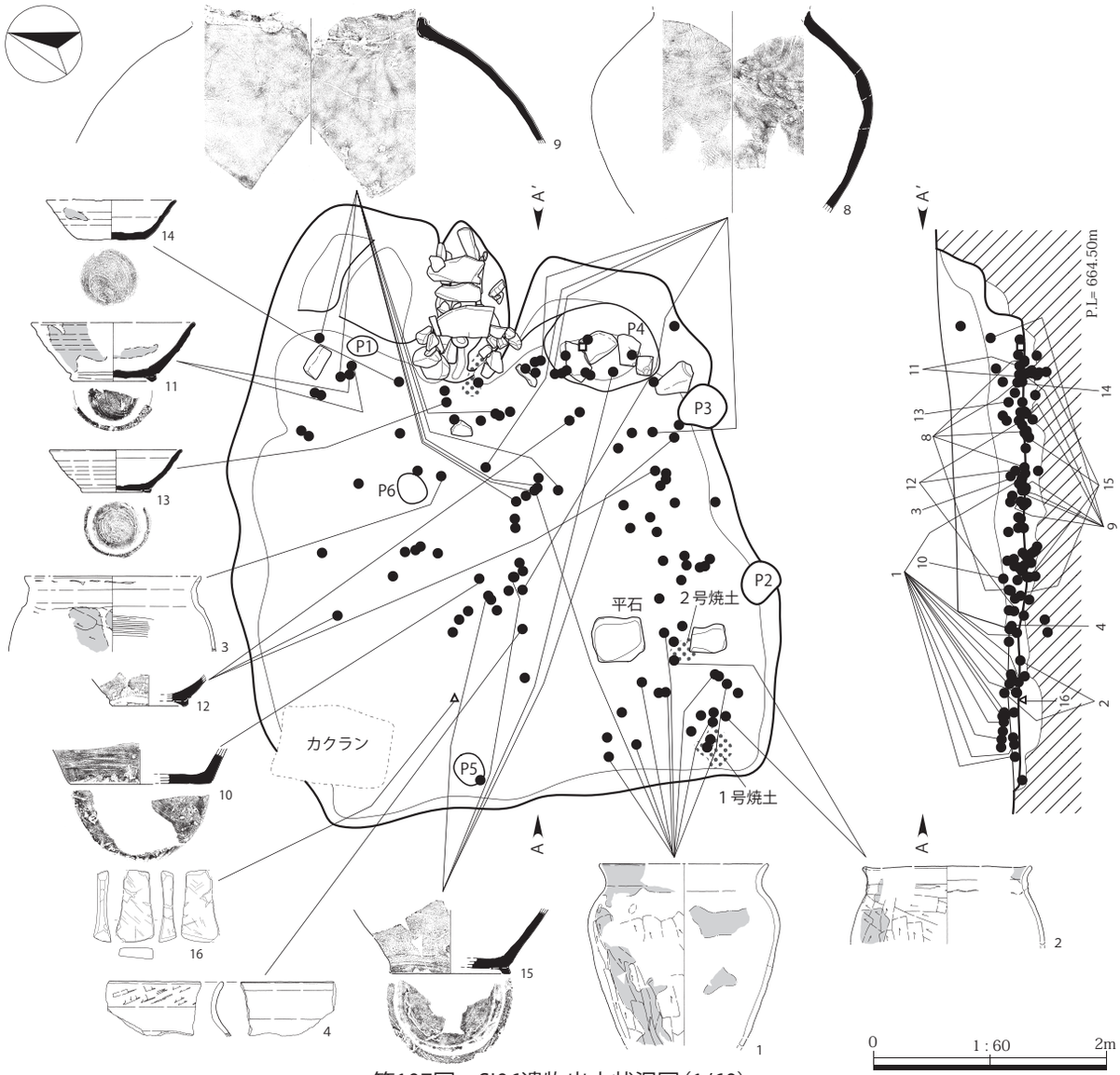
ＳＩ０６カマド土層説明
ａａ′ｂｂ′

1．赤黒色土層：粘性あり。しまりやや弱い。炭化物（φ0.5～3.0cm）多量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2．褐灰色土層：粘性あり。しまりやや弱い。YPk（φ0.5～1.0cm）・焼土粒（φ0.5～1.0cm）微量含む。
3．赤灰色土層：粘性あり。しまりやや弱い。焼土粒（φ0.5～1.0cm）・５層土ブロック（φ1.0～2.0 cm）少量含む。
4．灰白色粘土層：粘性あり。しまりやや弱い。焼土粒（φ1.0～2.0cm）含む。黒色土ブロック（φ1.0～2.0 cm）少量含む。
5．暗赤褐色土層：粘性あり。しまりやや弱い。４層土ブロック（φ1.0～3.0cm）含む。焼土粒（φ0.1～0.5 cm）微量含む。
6．褐灰色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。灰層。
7．橙色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。焼土層。
8．灰褐色土層：粘性あり。しまりあり。焼土粒（φ0.05～0.1 cm）含む。
9．黒色土層：粘性弱い。しまりあり。白色粒子（φ0.05～0.1cm）含む。
10．黒色土層：粘性弱い。しまりあり。白色粒子（φ0.05～0.1cm）含む。
11．褐灰色粘土層：粘性あり。しまりあり。白色粒子（φ0.05～0.1cm）含む。ロームブロック（φ1.0～3.0 cm）少量含む。
12．褐灰色粘土層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック（φ1.0～5.0cm）含む。
13．褐灰色粘土層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック（φ1.0～3.0cm）少量含む。

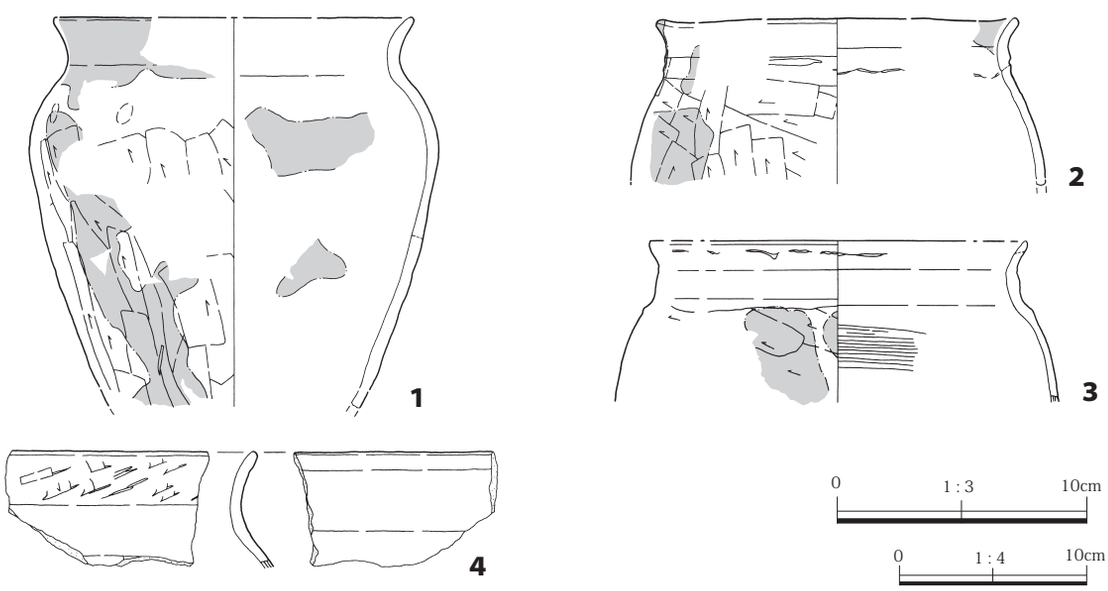


0　1 : 30　1m

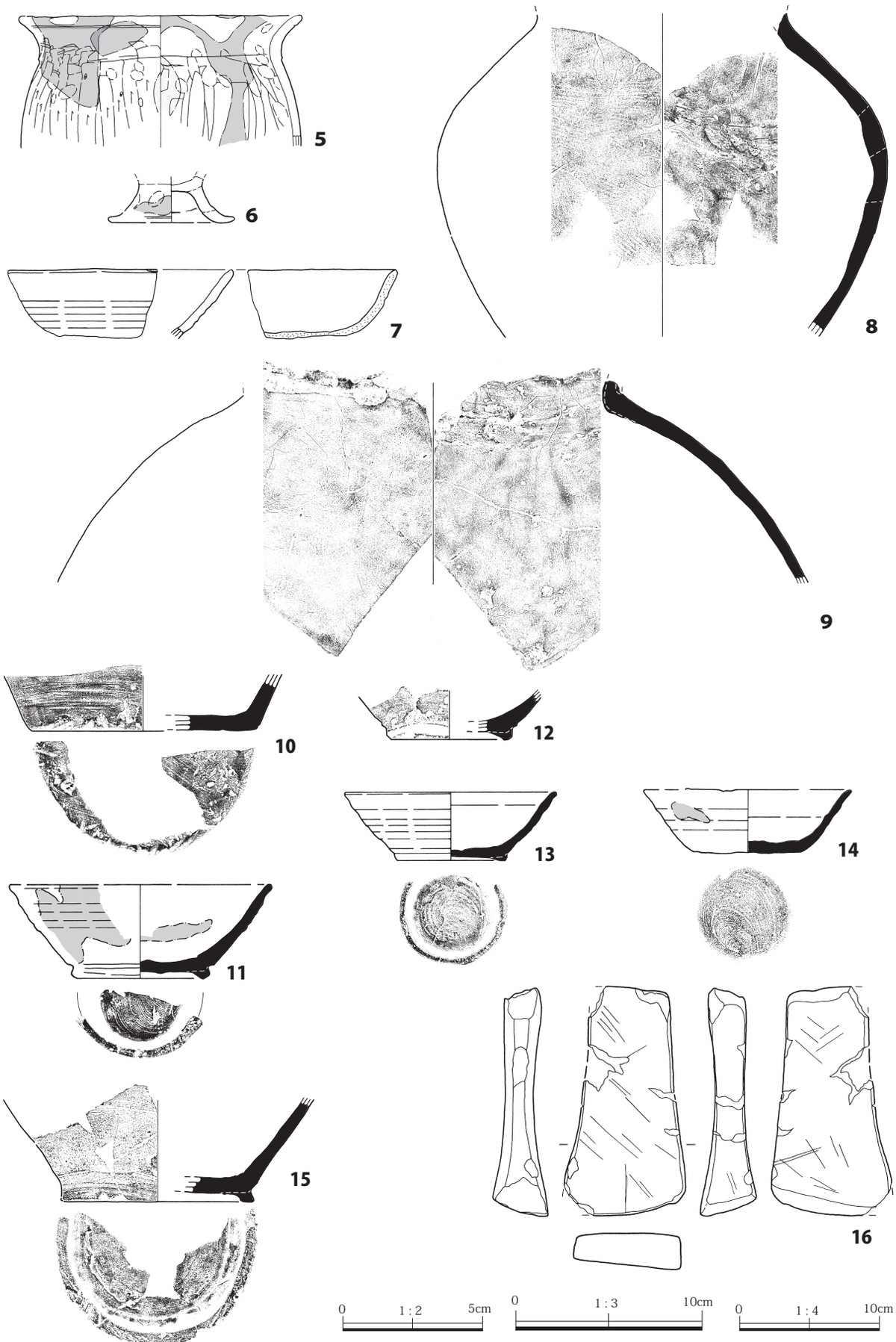
第106図　SI06カマド掘り方実測図（1/30）



第107図　SI06遺物出土状況図（1/60）

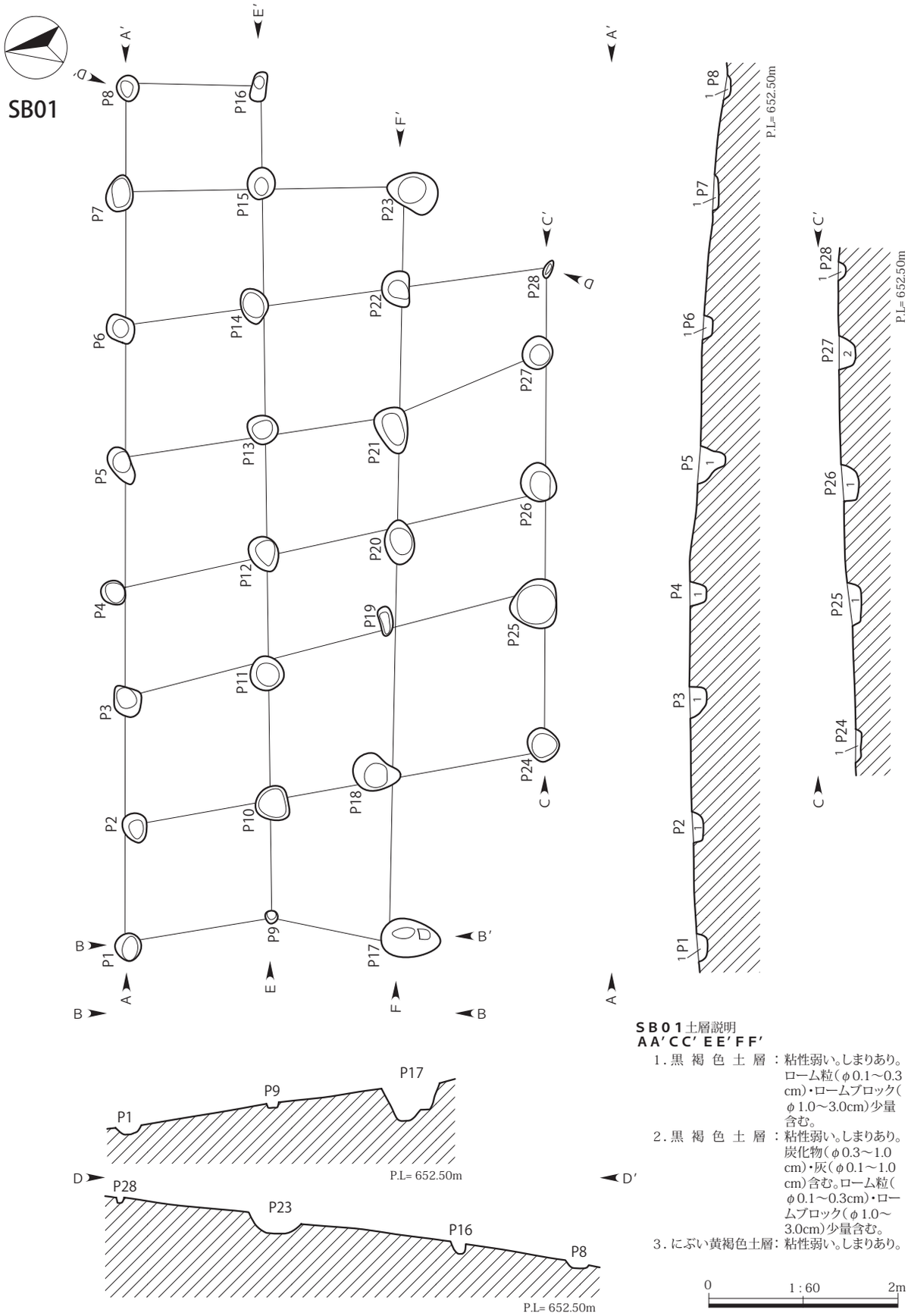


第108図　SI06出土遺物実測図①（1/3・1/4）



第109図　SI06出土遺物実測図②（1/2・1/3・1/4）

（2）掘立柱建物跡



SB01土層説明
AA′CC′EE′FF′

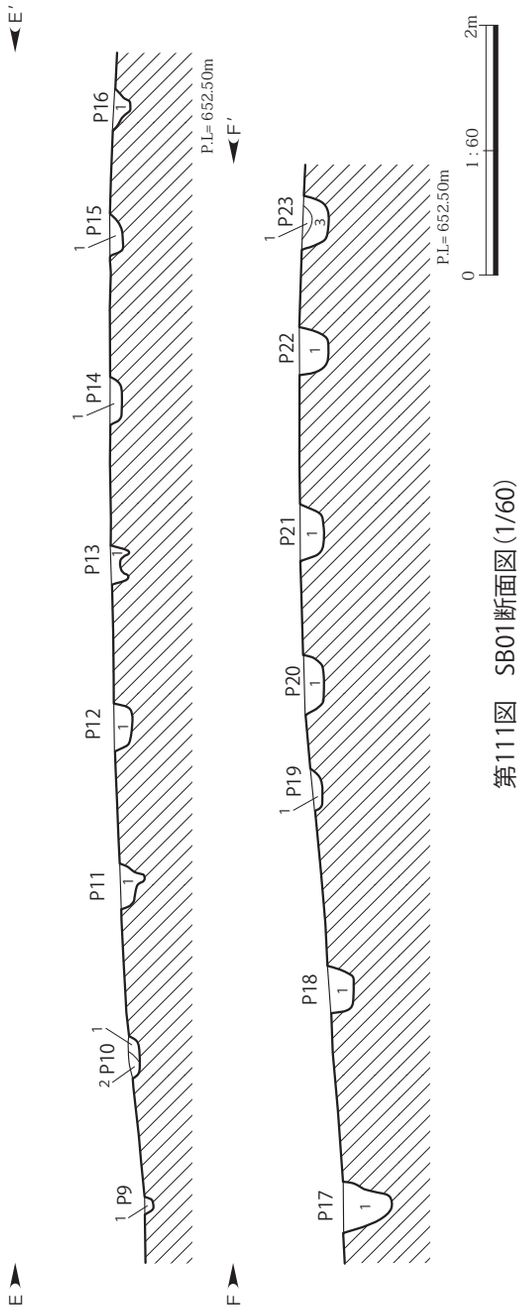
1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・ロームブロック（φ1.0～3.0cm）少量含む。

2．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。炭化物（φ0.3～1.0cm）・灰（φ0.1～1.0cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・ロームブロック（φ1.0～3.0cm）少量含む。

3．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。

0　1：60　2m

第110図　SB01実測図（1/60）



第111図　SB01断面図(1/60)

SB01（第110・111図／第19表／ＰＬ14）

位置　２－94区Ｃ－12　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　いずれの柱穴も浅く、削平されている可能性がある。**規模**　桁行７間（約9.2ｍ）梁間３間（約５ｍ）、東西柱間0.9～1.52ｍ、南北柱間1.14～1.8ｍ。　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｗ　**概要**　Ｐ１～Ｐ28までを柱穴とした。柱痕や柱アタリは見られない。規模については第19表に記載する。

その他の施設　確認されなかった。　**遺物出土状況**　なし。

遺物　なし。　**備考**　南東部では柱穴が確認できなかったが、７間×３間の総柱の掘立柱建物跡であると考えられる。出土遺物はないが、帰属時期は平安時代と考えられる。

（３）カマド屋

SK122（第112・152図／第24表／ＰＬ14・20）

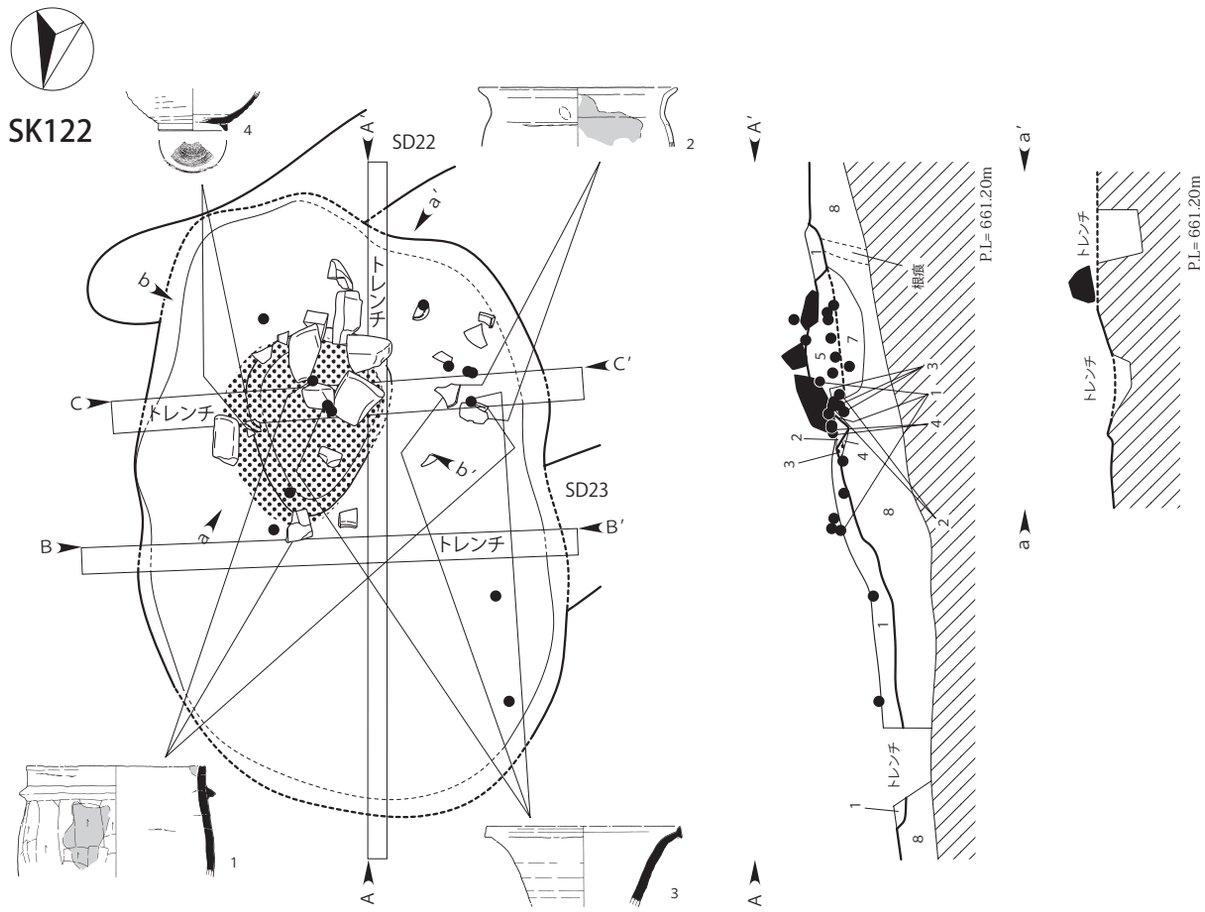
位置　４－３区Ｏ－８　**重複関係**　SN01と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　暗褐色～黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸推定254㎝、短軸167㎝、深さ28㎝。**主軸方位**　Ｎ－157°－Ｅ　**壁面・壁高**　北壁4㎝、南壁4㎝、西壁10㎝、東壁3㎝。外傾して立ち上がる。　**床面**　凹凸がある。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　全長25㎝、最大幅20㎝、火床面はほとんど掘り込まれておらず、焼土部分は1.5cmの厚さを有する。南寄りに位置し、周辺に支持材と見られる石材が散乱していた。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　縄文土器片１点、土師器甕10点、土師器椀２点、須恵器の羽釜１点・大甕１点・甕３点・椀１点、灰釉陶器の皿１点が出土した。　**遺物**　土師器甕１点、須恵器の羽釜１点・大甕１点・椀１点を図示した。　**備考**　検出段階で焼土と袖石と思われる構築部材が検出されたため、住居と想定して調査を行なったが、住居と認定できる大きさではなかったため、カマド屋として扱うこととした。帰属時期は、出土遺物から９世紀後半～10世紀前半と考えられる。

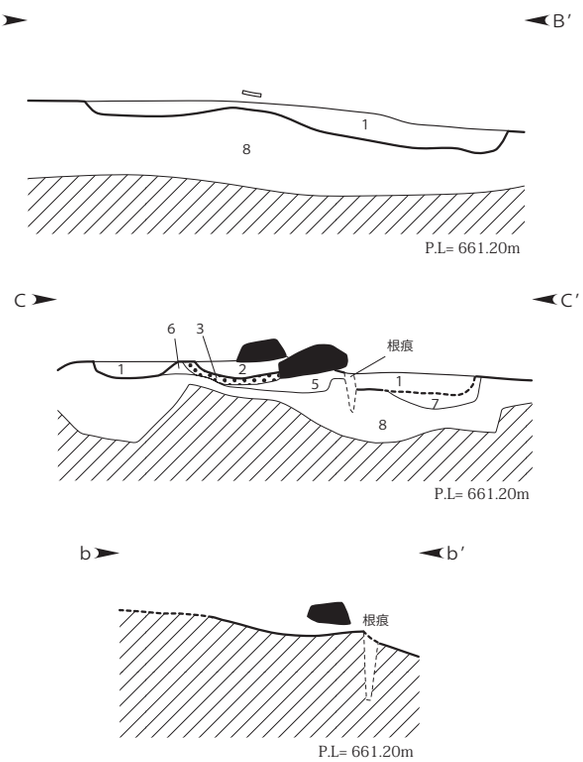
第19表　SB01ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
長軸長（㎝）	30	30	35	27	40	35	40	26	13	40	36
短軸長（㎝）	25	25	30	25	25	30	27	23	12	38	35
深　さ（㎝）	7	10	17	16	26	10	5	5	5	9	20

	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22
長軸長（㎝）	36	32	35	35	30	62	50	32	45	48	40
短軸長（㎝）	30	30	28	28	15	40	35	14	30	35	30
深　さ（㎝）	13	15	8	10	10	35	20	7	15	17	22

	P23	P24	P25	P26	P27	P28
長軸長（㎝）	55	35	50	42	34	18
短軸長（㎝）	38	30	41	35	32	10
深　さ（㎝）	18	5	10	15	17	5





SK122土層説明
AA′BB′CC′

1. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.2～1.0cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。焼土粒（φ0.1～0.3cm）含む。
4. 暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）含む。
5. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。
6. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。焼土粒（φ0.1～0.3cm）含む。
7. 灰黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.3cm）少量含む。
8. 暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）含む。

0　1：30　1m

第112図　SK122実測図（1/30）

（4）陥し穴

上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する陥し穴は、平安時代に帰属すると考えられる。

SK06（第 113 図）

位置　2－94区E－13　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 198㎝、短軸 98㎝、深さ 105㎝。　**主軸方位**　N－54°－W　**壁面**　下位は YPk 層の崩落を防ぐためのロームと黒色土から成る貼壁が垂直に立ち上がり、上位は貼壁の段差を経て外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片が 4 点出土し、1 点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。　**備考**　なし。

SK07（第 113 図）

位置　2－93区T－17　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形は楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 218㎝、短軸 142㎝、深さ 105㎝。　**主軸方位**　N－80°－E　**壁面**　下位は貼壁が認められる。下位は垂直に立ち上がり、上位は外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK08（第 113 図）

位置　2－93区S－17　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形は楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 180㎝、短軸 124㎝、深さ 112㎝。　**主軸方位**　N－11°－E　**壁面**　下位は貼壁が認められる。下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。　**底面**　中央に向かって傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK09（第 113 図）

位置　2－93区Q－19　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形は楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 310㎝、短軸 138㎝、深さ 130㎝。　**主軸方位**　N－31°－E　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK10（第 114 図）

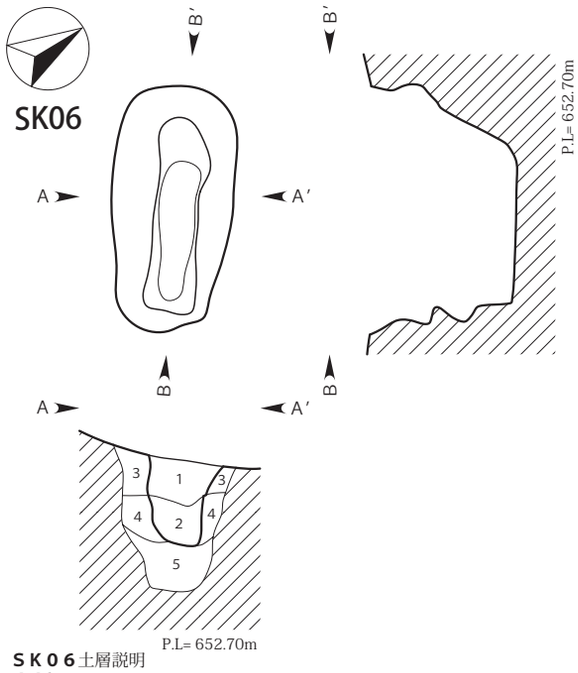
位置　2－93区S－18　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 188㎝、短軸 114㎝、深さ 100㎝。　**主軸方位**　N－41°－E　**壁面**　下位は垂直に、上位で段差を経て立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片 1 点と黒曜石の剥片 2 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　なし。

SK11（第 114 図）

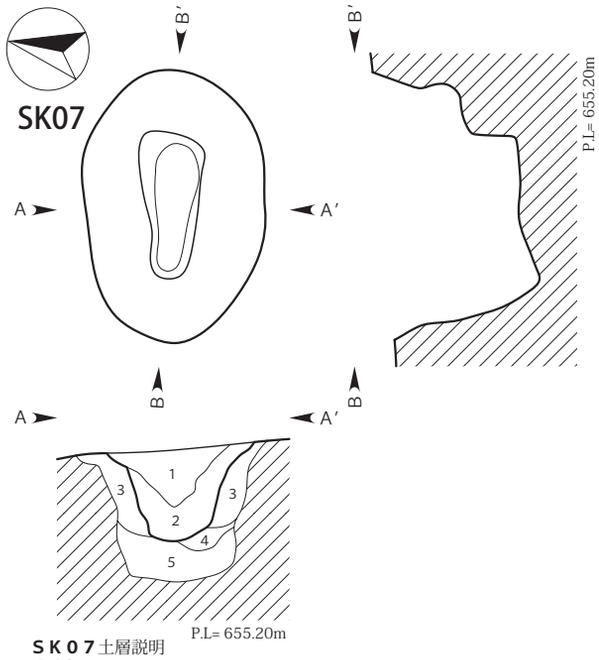
位置　2－94区A－19　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形は楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 196㎝、短軸 120㎝、深さ 106㎝。　**主軸方位**　N－61°－E　**壁面**　下位は垂直に、上位で段差を経て外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK15（第 114 図）

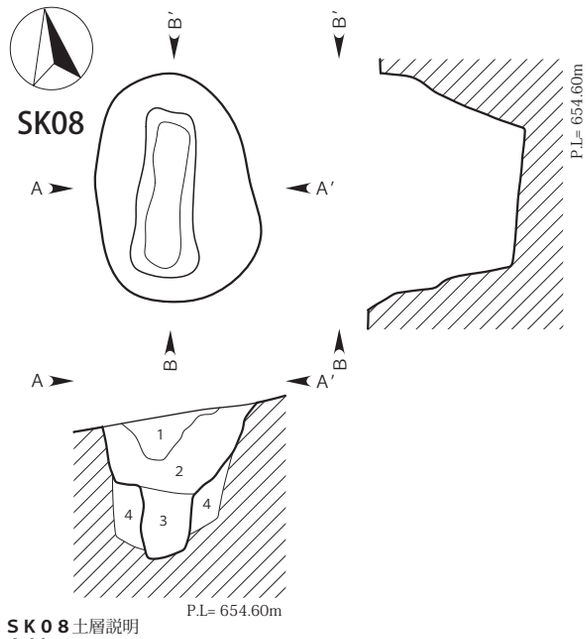
位置　2－94区E－13　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形は楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 160㎝、短軸 90㎝、深さ 110㎝。　**主軸方位**　N－76°－W　**壁面**　中位の段差を経て垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。



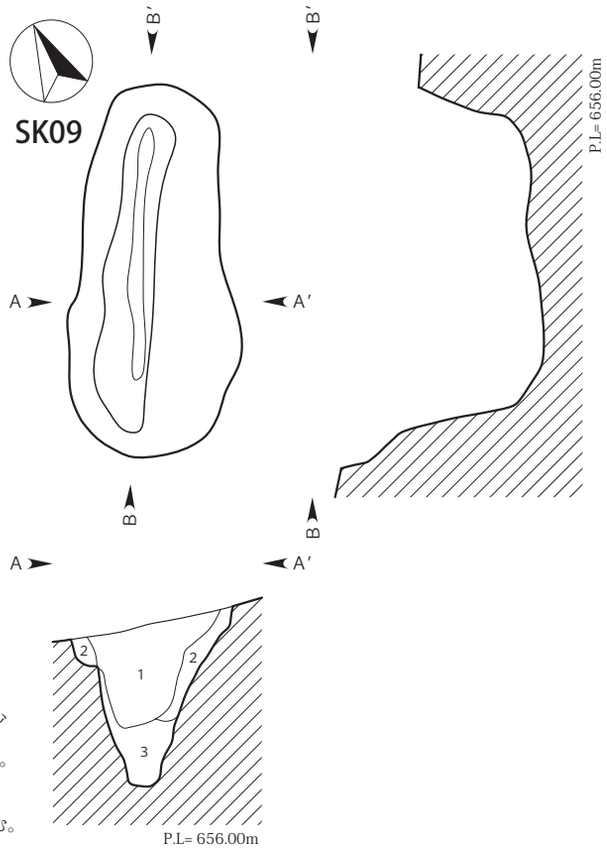
ＳＫ０６土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.2～3.0cm）少量含む。
2．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・ロームブロック（φ1.0～3.0cm）含む。
3．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）少量含む。
4．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。黒褐色土ブロック（φ1.0～3.0cm）含む。
5．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。



ＳＫ０７土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～2.0cm）多量含む。
2．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。炭化物（φ0.1～0.3cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
3．灰黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む。
4．黄 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。黒褐色土ブロック（φ1.0～3.0cm）少量含む。
5．暗 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む。



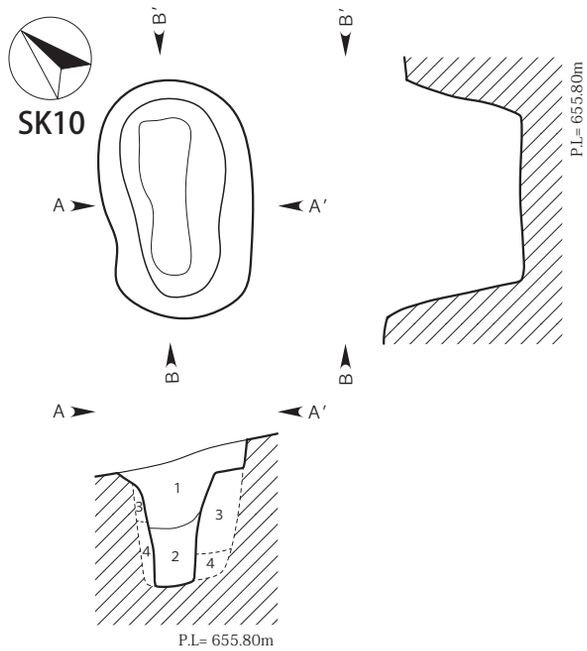
ＳＫ０８土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～2.0cm）多量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.2～1.0cm）少量含む。
3．黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。黒褐色土ブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む。
4．暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む。



ＳＫ０９土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.3cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
2．黄 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。黒褐色土ブロック（φ0.2～2.0cm）含む。
3．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.5cm）含む。

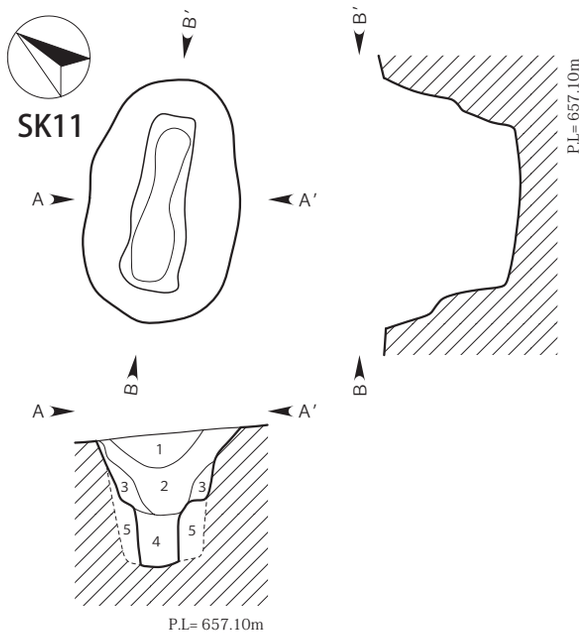
0　1：60　2m

第113図　SK06～09実測図（1/60）



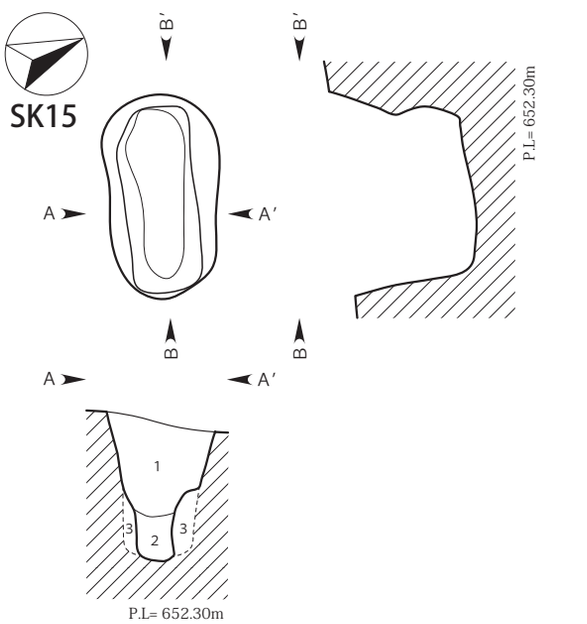
ＳＫ１０土層説明
ＡＡ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPk（φ0.3～1.0cm）少量含む。炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。
2．暗褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
3．明黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。黒褐色土ブロック（φ1.0～5.0cm）含む。
4．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む。



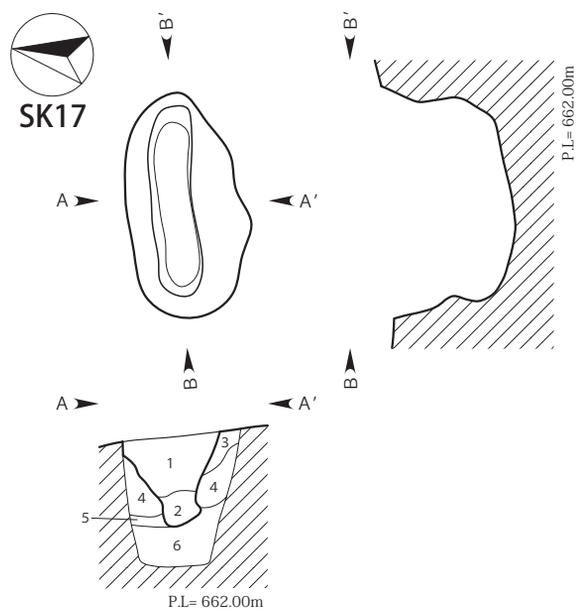
ＳＫ１１土層説明
ＡＡ′

1．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～3.0cm）多量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.3～2.0cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む。
3．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.2～1.0cm）少量含む。YPk（φ0.5～1.0cm）微量含む。
4．暗褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～1.0cm）少量含む。
5．明黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。黒褐色土ブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む。



ＳＫ１５土層説明
ＡＡ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～2.0cm）少量含む。
3．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～2.0cm）含む。



ＳＫ１７土層説明
ＡＡ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～2.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）含む。
3．黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）少量含む。
4．黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～6.0cm）多量含む。
5．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）含む。
6．暗褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～3.0cm）多量含む。砂礫（φ0.1～1.0cm）含む。

0　1：60　2m

第114図　SK10・11・15・17実測図（1/60）

備考　なし。

SK17（第 114 図）

位置　４－３区Ｓ－６　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形は楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 180㎝、短軸 88㎝、深さ 90㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 78°－Ｅ　**壁面**　下位は貼壁が認められる。外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片 1 点が出土し、図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。　**備考**　なし。

SK22（第 115 図）

位置　４－４区Ｅ－６　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 175㎝、短軸 127㎝、深さ 104㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 43°－Ｗ　**壁面**　下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK23（第 115 図）

位置　４－４区Ａ－７　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形は不整楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 147㎝、短軸 110㎝、深さ 96㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 18°－Ｅ　**壁面**　中位の段差を経て外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片 1 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　なし。

SK24（第 115 図）

位置　４－４区Ｂ－９　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 225㎝、短軸 125㎝、深さ 150㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 4°－Ｅ　**壁面**　中位で狭まり、上位は外傾して立ち上がる。　**底面**　北に向かって傾斜する。　**遺物**　縄文土器片 1 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　なし。

SK26（第 115 図）

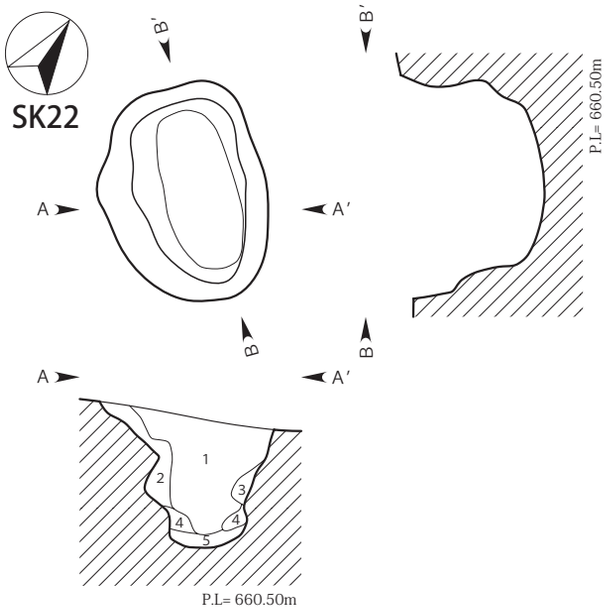
位置　４－３区Ｓ－８　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　長方形を呈する。規模は長軸 196㎝、短軸 73㎝、深さ 75㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 80°－Ｗ　**壁面**　中位で狭まり、上位は外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK28（第 116 図）

位置　４－３区Ｓ－６　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸長方形を呈する。規模は長軸 135㎝、短軸 58㎝、深さ 87㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 9°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片 1 点が出土したが、出土状況から遺構に伴うものではないと判断し、図示しなかった。　**備考**　なし。

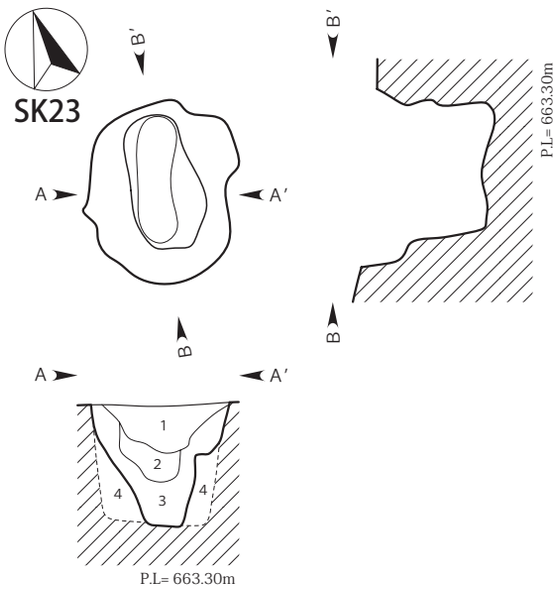
SK29（第 116 図）

位置　４－４区Ｇ－４　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 254㎝、短軸 238㎝、深さ 115㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 56°－Ｗ　**壁面**　中位の段差を経て外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。



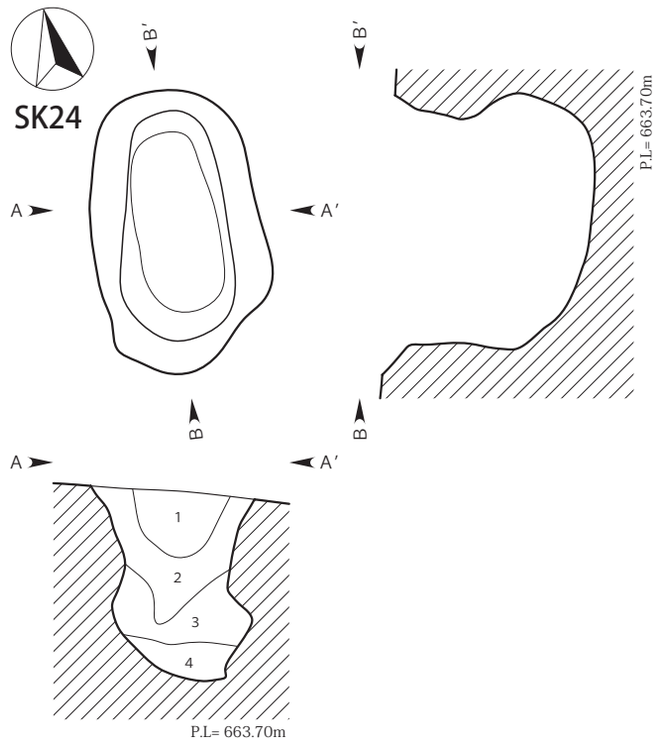
ＳＫ２２土層説明
ＡＡ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～10.0cm）・YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。
2．灰黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～6.0cm）少量含む。
3．黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。
4．黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）多量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
5．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。



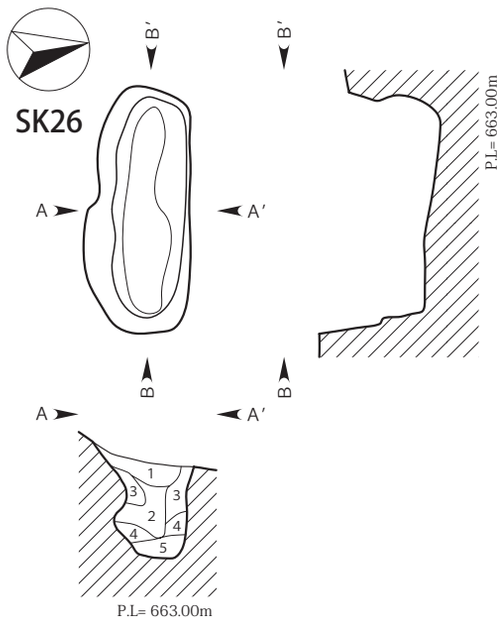
ＳＫ２３土層説明
ＡＡ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～3.0cm）含む。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。BP（φ0.2～3.5cm）微量含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
4．褐灰色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.3～1.0cm）・ロームブロック（φ0.5～3.0cm）含む。



ＳＫ２４土層説明
ＡＡ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.1～3.0cm）少量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。BP（φ0.2～2.0cm）微量含む。
3．黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック（φ0.5～10.0cm）多量含む。
4．黒褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

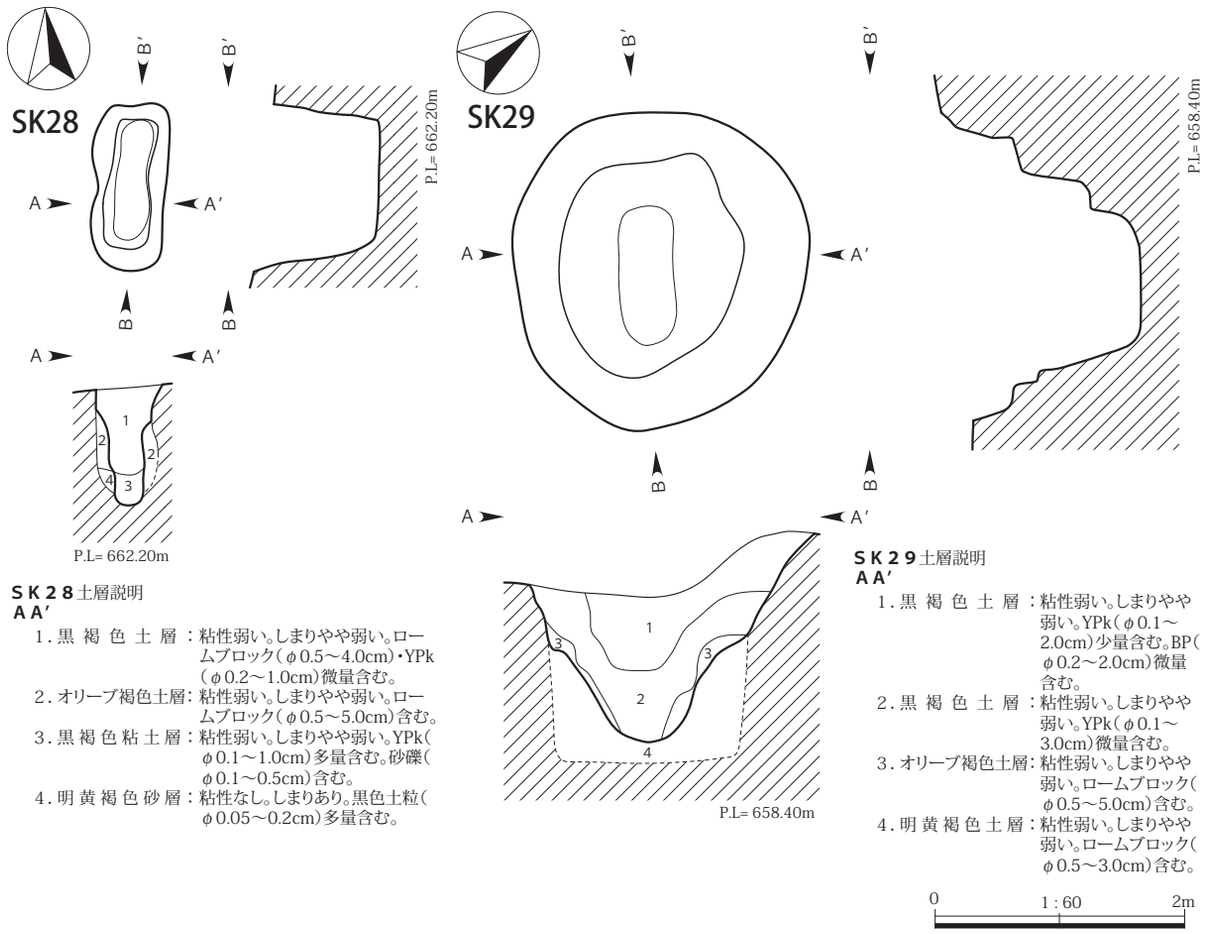


ＳＫ２６土層説明
ＡＡ′

1．黒色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりなし。YPk（φ0.1～3.0.cm）微量含む。
3．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～6.0cm）含む。
4．にぶい黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）多量含む。
5．暗褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）多量含む。

0　1：60　2m

第115図　SK22～24・26実測図（1/60）



第116図　SK28・29実測図（1/60）

SK30（第117図）

位置　4－4区E－7　**重複関係**　SK31と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上位は円形、下位は楕円形を呈する。規模は長軸145㎝、短軸136㎝以上、深さ103㎝。　**主軸方位**　N－16°－E　**壁面**　下位は貼壁が認められる。下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK32（第117図）

位置　2－94区F－12　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸長方形を呈する。規模は長軸188㎝、短軸112㎝、深さ93㎝。　**主軸方位**　N－71°－W　**壁面**　下位は貼壁が認められる。下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK33（第117図）

位置　4－4区B－7　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸250㎝、短軸160㎝、深さ120㎝。　**主軸方位**　N－73°－E　**壁面**　階段状に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK34（第117図）

位置　4－4区C－9　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。